

平成24年度
事業報告



学校法人 加計学園

建学の理念

ひとりひとりの
若人が持つ能力を
最大限に引き出し
技術者として
社会人として
社会に貢献できる
人材を養成する

目次

理事長挨拶	1
法人全般	2
岡山理科大学	17
倉敷芸術科学大学	27
千葉科学大学	34
岡山理科大学附属高等学校	40
岡山理科大学附属中学校	46
岡山理科大学専門学校	50
玉野総合医療専門学校	55
倉敷食と器専門学校	60

理事長挨拶



学校法人 加計学園

理事長・総長 加計 晃太郎

戦後、創立者加計勉は、一面の焼け野原となった広島で「資源の乏しい我が国の復興には教育こそ肝要」との信念のもと教育の道を志し、昭和36年に加計学園を設立しました。以来、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し 技術者として社会人として 社会に貢献できる人材を養成する」という建学の理念のもと、時代や社会のニーズを先取りした特色ある教育研究事業を展開し、現在、3大学、1高等学校、1中学校、3専門学校を擁する、中四国で有数の教育研究機関へと発展して参りました。

本学園は、豊富な教育資源と長年積み重ねてきた経験をもとに、平成24年度も本学園独自の教育研究事業を展開してきたところであります。岡山理科大学では、4番目の学部として生物地球学部を開設しました。この学部は、野外実習等のフィールドワークを主要な教育・研究方法としながら、これらを通して大自然のメカニズム、自然環境の変遷、人間と環境の関わり方の歴史に関する幅広い知識を習得させ、複雑な社会ニーズに応え、現在、我々人類が直面している様々な諸問題を解決できる人材の育成を目指して参ります。

倉敷芸術科学大学及び千葉科学大学は、地域との関わりを深め地域密着型大学としての存在感を高めるよう努力しました。

岡山理科大学附属高等学校は文部科学省からSSH指定校に選定されたことを契機に中高大が連携した、理科教育の実現を目指して岡山理科大学附属高等学校、中学校ともに教育内容の質的改善に全校を挙げて取り組みました。

専門学校においては、専門的技術や知識の習得及び国家資格等の取得を通して社会に役立つ人材の育成に努めました。

以上のとおり、平成24年度は高等教育機関としてキャリア教育に力を注ぐとともに教育研究内容の抜本的改善に努めました。また、海外の教育交流協定校との国際交流やイメージ教育の導入、留学生による日本語弁論大会等グローバル化に向けた取組みを推進しました。

平成24年度 事業報告

法人全般

学園全体の取組

■ヘルスピア倉敷

平成22年にオープンしましたヘルスピア倉敷にて、倉敷芸術科学大学生命科学部健康医療学科の学生が鍼灸ケアセンターを実習利用し、相互の連携を深めています。

今年度、新たに鍼灸治療院を開院し、倉敷芸術科学大学有資格教員が週2回外部診療を始めました。また、平成25年4月からは、学生の実習の場としても利用していきます。



■株式会社SID創研

平成23年12月、加計学園出資会社として株式会社SID創研



(Space(空間)Intellect(知性)Dream(夢))を設立、今年度より本格的に運営いたしました。事業活動の受注及び代行を行うことで快適な環境整備、業務の効率化を図りました。今後、コスト削減及び教育活動において、さらに有効利用していきたいと考えています。

主な事業は下記の通りです。

- ①建築の設計及び工事監理、建物メンテナンスに関する事業
- ②書籍、雑誌、教材の販売
- ③知的情報管理に関する事業

- ④旅行者に基づく旅行者代理業
- ⑤人材派遣事業
- ⑥宅地建物取引に関する事業
- ⑦保険に関する事業
- ⑧その他適法な一切の事業

■省エネルギーの推進

平成21年度より省エネルギー推進委員会を定期的で開催し、省エネルギーに対する教職員の意識向上に努めています。今年度も、エアコンの設定温度を厳守、不要な照明の消灯等日常の心がけを大切に取り組みました。

夏はクールビズ、冬はウオームビズを実施し、衣服の調整でエアコン等の消費電力量の削減に取り組みました。

また、各設置校で省エネの分科会を年4回開催し、省エネ対策を検討しました。学園全体では、省エネ推進委員会を年2回開催し、各設置校の省エネ対策をまとめ、より効果的な省エネ推進に努めました。

■FD・SDの推進

FD・SD研修会等を学園全体で開催することで、教職員一人ひとりが、多様化された時代に必要な取組は何か気付くきっかけ作りを行い、学園の活性化に努めました。

9月1日(土)、全教職員を対象に「変わる」から「変える」へ、をテーマに研修会を開催しました。第1部では、チャレンジする私立大学と題し、日本私立学校振興・共済事業団 山本雅淑氏より、財務状況の分析、私立大学の事例等を中心に講演を頂きました。第2部では、地域連携・地域密着大学の取り組みと題し、学校法人 新静岡学園 理

事長 大坪檀氏より教職員改革等について講演を頂きました。

9月8日(土)、第3部 JALグループの再生と意識改革ーJALフィロソフィーと題しまして、JALメンテナンスサービス代表取締役社長 吉岡俊彦氏より講演を頂きました。

12月28日(金)、1月7日(月)と2回にわたり、「われらの学校自慢」研修会を開催しました。年末年始行事の前に、教職員一人ひとりが1年間を振り返り、各学校の取組みや強みを知るきっかけになることを目的としました。

■私立大学等経常費補助金研修会

7月6日(金)、法人本部・岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・千葉科学大学で、補助金業務に携わっている職員を対象とした研修会を開催いたしました。

法人総務部法人総務課主催で行い、約70名の参加がありました。

今年度申請に関しての留意点、昨年度より変更のあった箇所等の説明を行いました。

8月22日(水)・23日(木)、千葉科学大学にて経常費補助金提出書類の根拠資料・整備状況確認を行ったことで、より良い改善に繋がっていきます。

■三大学学長会議

岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・千葉科学大学の学長及び事務局長等による会議を定期的に行い、大学間の連携や運営方針などを話し合い、将来計画の策定やその実現に努めました。

■財務改善会議

各学校の代表者による財務改善会議を開催し、健全な財務体質となるよう改革を進めています。

今年度は3回開催し、定員割れの原因と対策等について議論しました。

■広報会議(毎月)

学生確保に向け、広報戦略等を共有することで、

学園全体の志願者が増加するように努めました。

■進化する自己点検・勤務考課

各部署における目標に対し、職員各自が個々の目標を持って業務にあたり、11月に10項目に渡り自己点検を行った後、上司により考課・面談を行いました。一人ひとりが、業務改善や連携の強化など活力ある組織づくりに努めます。

また、契約職員においては、契約更新時に面接を行った後、本人へ結果を知らせると共に課題提出を行い人材育成に努めました。

■ワーク・ライフ・バランス

労務時間の管理を徹底し、さらに各部署における業務見直しにより時間あたりの生産性を向上させることで心身共に負担となる時間外労働の削減を実現しワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を図り、健康で豊かな生活のための時間が確保できる組織作りを目指しました。

■高年齢法・労働契約法改正に伴う研修会

12月26日(水)、社会保険労務士 山本豊郎氏より講演を頂きました。学園として法律に基づき対応をしていきます。

■包括連携協定

5月8日(火)、株式会社山田養蜂場と教育交流協定を締結しました。岡山理科大学11号館8階ラウンジで行われた調印式で、加計晃太郎理事長と山田英生社長が協定書に署名し、握手を交わしました。平成22年に岡山理科大学附属高等学校生命動物コースが山田養蜂場で実習を行って以来交流が続き、今回の協定となりました。

11月26日(月)、地域社会の発展と学術の振興に寄与することを目的に、新見市と包括連携協定を締結しました。新見市役所で行われた調印式で、石垣正男市長は「雇用確保と産業振興につながれば」と挨拶されました。

3月18日(月)、瀬戸内市と包括連携協定を締結しました。地域づくりの推進、観光や産業な

どの地域経済の発展、教育・文化・スポーツ、自然環境の保全などの6項目が盛り込まれ、調印式で武久市長は「瀬戸内市を研究フィールドとして活用していただきたい」と挨拶されました。

NEXT100周年

■伊能忠敬全国巡回フロア展

今年度創立50周年を迎えた岡山理科大学附属高等学校の記念事業の一環として、完全復元伊能図全国巡回フロア展を平成24年9月21日(金)～24日(月)の4日間、加計第2記念体育館及び加計学園50周年記念館を会場として行いました。

加計第2記念体育館のフロア全面に、伊能図の原寸大の複製を大図(1/36,000)、中図(1/216,000)、小図(1/432,000)計225枚を敷き詰め展示するとともに、伊能忠敬の経歴および測量経過を辿ることのできるパネルも設けました。50周年記念館では、伊能測量隊が使用した測量機器のレプリカの展示と俳優座が制作した伊能忠敬の生涯を描いた映画「伊能忠敬-子午線の夢-」の上映が行われました。

一般公開の9月21日(金)～23日(日)の3日間で総勢3,509名の来場者がありました。

24日(月)は学内者への公開として学生・教職員が見学し、4日間で合計4,531名が伊能忠敬の偉業に触れる機会をもちました。

フロア展で、本学園が文化情報の発信源として地域に貢献する良い機会となりました。



■加計勉基金の創設

学校法人加計学園の記念事業として、50周年記念加計勉基金の創設に向け着手しました。

特命事業関係

私学経営の厳しさが増す中で多様な財源確保方策の一助とし、且つ学園組織の簡素化等に資するため特命事業として、事業法人による効率的な収益事業を展開するため(株)K2ライフラボの実施事業を(株)SID創研へ整理統合し、平成24年9月から積極的に企業活動を展開し学園への寄与するよう努めました。

■主な事業

次の各種事業を積極的に展開して参ります。

①技術・研究シーズの社会還元事業の展開

- ・好適環境水事業(陸上閉鎖循環式養殖システム・海水魚淡水魚混泳化飼育水、魚体トリートメント浴用水)
- ・水質浄化事業(亜塩素酸・水族館、湖沼等)
- ・eラーニング事業(MOMOTAROシステム)
- ・化粧品開発事業(潤身シリーズ)
- ・その他の特許権、著作権に係る市場化事業

②学園業務支援事業の展開

- ・業務受託事業
- ・学外実習場の提供(アクア事業)及び実習成果物受託販売(観賞魚・魚介類等)
- ・印刷・製本事業

③学生・教職員、地域住民等に対する学園サービス業務の代行又は提供事業

- ・図書類、学用品等の斡旋販売
- ・レンタル事業(袴・生活用品・各種物品)
- ・各種傷害保険等保険代理店事業

④ヘルスピア倉敷等運営事業

ヘルスピア倉敷の施設整備の進展に伴い倉敷芸術科学大学との連携の下に事業を展開してきましたが、施設の合理的、効率的な運営を図る

ためファスティング・ラドン温浴施設・レストラン各事業は、平成24年8月から学園へ運営移管しました。次の事業について、9月から株式会社創研に移行し運営を行っています。

- ・屋外プール・アイスアリーナ・スポーツ施設（テニス、フットサル、スカッシュ等）

⑤人工飼育水の特許取得

岡山理科大学山本俊政准教授の開発した好適環境水は、平成18年特許出願申請していましたが、平成24年8月17日付けで、特許登録されました。

国際交流関係

本学園はグローバル化する国際社会において、諸外国との親密な連携が人材育成には不可欠であると考え、早くから国際性の涵養を教育理念の一つに掲げ、様々な取り組みを行いました。

■フェアウエルパーティー

7月10日、教育交流協定を締結している諸外国の学生等を招待するフェアウエルパーティーを、岡山理科大学スカイテラスにて開催いたしました。

アメリカ・ブラジル学生訪日文化研修団21名を含む約500名が参加し、中国、韓国、ネパール、スリランカ、ベトナムの屋台を楽しみました。

■第二回加計学園杯日本語弁論国際大会

第二回加計学園杯日本語弁論国際大会の地区予選を7～10月に7カ国計10会場にて開催いたしました。これら予選で選抜された10名の出場者による決勝大会を岡山理科大学にて11月16日（金）に開催しました。

約500名の入場者があり、出場者は自国の素晴らしい所や大事にしていることなど「お国自慢」を流暢な日本語で披露しました。

■第三回加計杯日本語弁論大会

学園設置校に在籍している留学生による弁論大

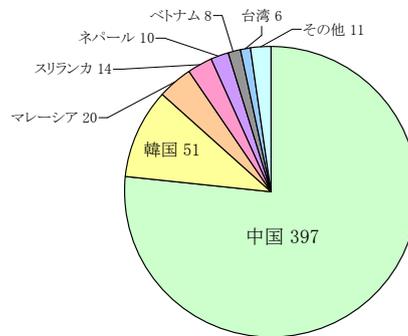
会の決勝を11月17日（土）に開催し、中国、スリランカなど4か国の留学生13人が「私を感じた見た日本」をテーマにスピーチを行いました。

■海外支局長会議

春期は4月6～7日、秋期は11月15日の2回開催しました。海外協定校との連絡、留学生の確保など、海外支局長との連携を密にしたいと考えています。

■国別留学生内訳

（平成24年5月1日現在）



総数：517（単位：人）

■平成24年度教育交流協定を締結校

10月5日 韓国礼一デザイン高等学校

■教育交流協定校との交流プログラム

国名	計 画	予定
アメリカ	受入：ライト大学仕事体験生 5名（岡山理科大学） 受入：フィンドリー大学仕事 体験生1名（千葉科学大学）	4～3月 9～3月
韓 国	受入：湖西大学単位互換履修 生4名（岡山理科大学2名、 倉敷芸術科学大学2名）	4～3月
台 湾	受入：致理技術学院科目等履 修生8名（岡山理科大学4名・ 倉敷芸術科学大学4名）	4～2月
台 湾	受入：致理技術学院学生訪日 研修団 計27名	5.28～ 6.6
アメリカ	受入：フィンドリー大学学生 訪日研修団来学8名	6.26～ 7.18
ブラジル	受入：パラ連邦大学・パラカ カ大学学生訪日研修団13名	6.26～ 7.18
中 国	受入：江蘇省前黄中学、鎮江 市実験中学高校生研修団29名	7.18～ 7.21
韓 国	受入：木洞高校学生研修団 25名	7.18～ 7.22
韓 国	受入：慶一学園生徒研修団 32名	7.23～ 7.31
ブラジル	派遣：パラ連邦大学・パラカ カ大学へ学生研修団7名	8.8～ 8.31
アメリカ	派遣：フィンドリー大学へ学 生研修団10名	8.16～ 9.10
台 湾	派遣：致理技術学院へ学生研 修団5名	8.27～ 9.5
中 国	受入：東北師範大学人文学院 短期(単位互換)留学生1名	9月～3 月
韓 国	受入：全南女子商業高校学生 研修団18名	12.4～ 12.9
韓 国	受入：正明高校学生研修団	2.13～ 2.18
韓 国	派遣：湖西大学へ学生研修団	3.8～ 3.14

海外協定校（別表3）

（平成25年3月31日現在）

国名	教育交流協定校	校数
中国	南開大学、北京科技大学、雲南大学、中山大学、河南科技大学、東北師範大学、東北師範大学人文学院、中国管理軟件学院、北京城市学院、北京市実美職業学校、北京市求实職業学校、黒龍江中医薬大学、安徽外国語学院 （留学生募集に関する提携校：内モンゴル省智力引進外語専修学院、北京平成日本語学校、成都瀨川日本語学校、四川外国語学院国際教育学院、西南交通大学外語学院国際項目部、深圳職業技術学院、明正日本語学校、南京卓越日本語専修学院、無錫運河実験中学校、長沙明照日本語専修学院、吉林动画学院他）	13校 (23校)
韓国	慶一学園、金剛学園（永同大学、亨硯高校）、鶴山学園（東ソウル大学）、金龍学園（徳園女子高校、徳園芸術高校）、桂林学園（正明高校）、清錫学園（清州大学）、純心教育財団（純心高校）、湖西学園（湖西大学）、江原大学、金泉大学、大田保健大学、韓国防災協会、全南女子商業高等学校、木洞高校、礼ーデザイン高等学校	15校
台湾	大華技術学院、明新科技大学、南台科技大学、稲江科技暨管理学院、稲江高級商業職業学校、金甌女子高級中学、致理技術学院、海山高級工業職業学校、治平高級中学、財団法人崇右技術学院	10校
アメリカ	ライト大学、ハワイ大学、フィンドリー大学、シェネンドーア大学、グアム大学	5校
イギリス	サンダーランド大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所、ダービー大学	4校
スリランカ	ワヤンバ・ロイヤルカレッジ、マリヤデワ・カレッジ、マリヤデワ・バーリカウィッダヤラヤ、マヒンダ・カレッジ・ゴール	4校
ブラジル	パラナ・カトリカ大学、パラナ連邦大学、バンデイランテス高校	3校
オーストリア	ヨハネス・ケプラー大学、リンツ工科造形芸術大学	2校
シンガポール	ニー・アン・ポリテクニク、シンガポール・ポリテクニク	2校
ベルギー	ブリュッセル自由大学、アントワープ王立美術アカデミー	2校
タイ	泰日工業大学、パトゥムワン・デモンストレーション・スクール	2校
フランス	リヨンI大学	1校
カナダ	モホーク大学	1校
フィリピン	フィリピン国立大学ロスバニョス校	1校
コスタリカ	コスタリカナショナル大学	1校
オーストラリア	アニマルインダストリーズリソースセンター	1校
コンゴ民主共和国	高等技術大学	1校
マレーシア	マラ工科大学医学部	1校

人事・組織

■人事評価プロジェクトの廃止

職員の自己点検・勤務考課が実施後2年を経過し、軌道に乗ったため廃止としました。

■加計学園理事・監事・評議員概況

区分	定数	常勤	非常勤	計
理事	9～13	7	3	10
監事	2		2	2
評議員	23～32	28	4	32

(平成24年5月1日現在)

■役員について

5月31日：加藤忠蔵理事退任

学園の概況

■学園の沿革（抜粋）

- 昭和30年 4月 加計学園の出発点ともなった広島英数学館を、加計勉が創立
- 昭和36年 9月 学校法人加計学園認可、理事長に加計勉就任、岡山電機工業高等学校設置認可
- 昭和37年 4月 岡山電機工業高等学校開校（全日制） 初代校長に神崎栄一郎就任
- 昭和39年 1月 岡山理科大学設置認可
- 2月 岡山理科大学設置認可にともない、岡山電機工業高等学校を岡山理科大学附属高等学校と改称
- 4月 岡山理科大学開学（理学部） 初代学長に加計勉就任
- 昭和42年 4月 岡山理科大学附属高等学校第2代校長として、内藤一人就任
- 昭和44年12月 真庭郡川上村に岡山理科大学蒜山研究所、蒜山学舎を開設
- 昭和48年10月 学校法人加計学園の所在地が岡山市の住居表示変更により、岡山市理大町と町名変更
- 昭和49年 4月 岡山理科大学大学院理学研究科修士課程を設置
- 岡山理科大学附属高等学校第3代校長として中尾寿夫就任
- 昭和50年 4月 岡山高等建築専門学院設置認可
- 5月 岡山高等建築専門学院開校（建築学科夜間部定時制） 初代校長に中尾寿夫就任
- 昭和51年 4月 岡山高等建築専門学院、専修学校法施行により岡山高等建築専門学校と改称
- 昭和53年 4月 岡山理科大学大学院理学研究科に博士課程（後期）を設置
- 昭和55年 4月 岡山理科大学第2代学長に、奥田毅就任
- 岡山理科大学附属高等学校第4代校長として、松本卓三就任
- 岡山高等建築専門学校昼間部を増設、第2代校長として片山誠二就任
- 7月 寄附行為変更により総長制度認可、初代総長に加計勉就任
- 昭和59年 4月 岡山理科大学第3代学長に、黒谷寿雄就任
- 昭和61年 4月 岡山理科大学工学部設置
- 岡山理科大学附属高等学校第5代校長として、三宅寛就任
- 岡山高等建築専門学校を岡山理科大学専門学校と改称

- 平成 2年 4月 岡山理科大学第 4 代学長に、加計勉就任
岡山理科大学大学院の理学研究科を改組し、工学研究科を設置
- 平成 4年 1月 岡山理科大学附属高等学校第 6 代校長として、加計晃太郎就任
4月 岡山理科大学附属高等学校第 7 代校長として、渡辺己巳生就任
- 平成 6年12月 倉敷芸術科学大学設置認可 初代学長に谷口澄夫就任
- 平成 7年 4月 **倉敷芸術科学大学**開学
- 平成 9年 4月 岡山理科大学総合情報学部を増設
12月 玉野看護福祉総合専門学校設置認可
- 平成10年 4月 **玉野看護福祉総合専門学校**を開校 初代校長に金政泰弘就任
岡山理科大学附属高等学校第 8 代校長に三木輝知就任
岡山理科大学専門学校第 3 代校長に村上侑就任
- 平成11年 4月 倉敷芸術科学大学第 2 代学長に土井章就任
倉敷芸術科学大学大学院開設
- 平成12年 4月 倉敷芸術科学大学教養学部を国際教養学部に変更
- 平成12年 4月 岡山理科大学附属高等学校通信制課程普通科を設置
- 平成13年 1月 学校法人加計学園第 2 代理事長・総長に加計晃太郎就任
4月 岡山理科大学大学院修士課程に総合情報研究科設置
倉敷芸術科学大学大学院芸術研究科に博士（後期）課程設置
玉野看護福祉総合専門学校を、**玉野総合医療専門学校**に名称変更
岡山理科大学第 5 代学長として、山村泰道就任
9月 岡山理科大学附属中学校設置認可
- 平成14年 4月 倉敷芸術科学大学大学院（通信制）設置
岡山理科大学附属高等学校第 9 代校長として、北尾正幸就任
岡山理科大学専門学校第 4 代校長として、逢坂一正就任
岡山理科大学附属中学校開校 初代校長として、善木道雄就任
- 平成15年 4月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部（通信教育課程）、国際教養学部（通信教育課程）
を設置
11月 千葉科学大学設置認可
- 平成16年 3月 倉敷芸術科学大学専門学校設置認可
4月 岡山理科大学第 6 代学長に宮垣嘉也就任
倉敷芸術科学大学生命科学部を設置
倉敷芸術科学大学国際教養学部募集停止
倉敷芸術科学大学国際教養学部（通信教育課程）募集停止
千葉科学大学開学 初代学長に平野敏右就任
倉敷芸術科学大学専門学校開校 初代校長に岡本繁通就任
- 平成17年 4月 倉敷芸術科学大学第 3 代学長に添田喬就任
岡山理科大学附属高等学校第 10 代校長に橋爪道彦就任
岡山理科大学附属中学校第 2 代校長に新倉正和就任
岡山理科大学専門学校第 5 代校長に圓堂稔就任
玉野総合医療専門学校第 2 代校長に岡田茂就任
- 平成19年 4月 倉敷芸術科学大学専門学校第 2 代校長に伊藤敏夫就任
- 平成20年 4月 岡山理科大学第 7 代学長に波田善夫就任
千葉科学大学大学院薬科学研究科、危機管理学研究科設置
倉敷芸術科学大学専門学校を**倉敷 食と器 専門学校**に名称変更
- 平成21年 4月 岡山理科大学専門学校第 6 代校長に小林正文就任

- 平成22年 3月 倉敷芸術科学大学国際教養学部を廃止
- 平成22年 4月 千葉科学大学第2代学長に赤木靖春就任
玉野総合医療専門学校第3代校長に高井研一就任
倉敷 食と器 専門学校第3代校長に川上雅之就任
千葉科学大学大学院薬科学研究科博士課程（後期）、危機管理学研究科博士課程（後期）設置
- 平成23年 4月 倉敷 食と器 専門学校第4代校長に亀井秀人就任
岡山理科大学大学院工学研究科生体医工学専攻設置
岡山理科大学大学院工学研究科建築学専攻設置
岡山理科大学工学部建築学科設置
岡山理科大学総合情報学部建築学科募集停止
倉敷芸術科学大学産業科学技術学部経営情報学科設置
倉敷芸術科学大学産業科学技術学部IT科学科募集停止
倉敷芸術科学大学産業科学技術学部起業経営学科募集停止
倉敷芸術科学大学生命科学部健康医療学科設置
- 平成23年10月 倉敷芸術科学大学第4代学長に唐木英明就任
- 平成24年 4月 岡山理科大学附属高等学校第11代校長に宮垣嘉也就任
岡山理科大学附属中学校第3代校長に位田隆久就任
岡山理科大学専門学校第7代校長に村岡正就任
岡山理科大学生物地球学部設置
岡山理科大学総合情報学部生物地球システム学科募集停止
倉敷芸術科学大学別科に調理師別科、製菓衛生師別科設置
千葉科学大学大学院薬科学研究科を薬学研究科に名称変更、薬学科（6年制）を基礎とした薬学専攻博士課程（4年制一貫）を設置
千葉科学大学危機管理学部に環境危機管理学科及び動物危機管理学科を設置
- 平成24年 7月 千葉科学大学大学院薬学研究科について、薬学科（4年制）を基礎とした薬学専攻修士課程を廃止
- 平成24年 9月 千葉科学大学危機管理学部航空・輸送安全学科の名称変更届出
- 平成25年 3月 倉敷芸術科学大学芸術学部工芸・デザイン学科を廃止
倉敷 食と器 専門学校閉校

■設置校概況

平成24年5月1日現在

区 分	合計		教員	職員	計
	定員	現員			
岡山理科大学 (岡山市北区理大町1-1)	5,434	5,827	275	190	465
大学院	384	242		(本部) 79 (理大) 111	
理学研究科	191	109			
工学研究科	146	88			
総合情報研究科	47	45			
学部	5,050	5,585			
理 学 部	2,070	2,428			
工 学 部	1,870	2,003			
総合情報学部	1,010	1,035			
生物地球学部	100	119			
倉敷芸術科学大学 (倉敷市連島町西之浦2640)	2,192	1,707	114	63	177
大学院	126	54			
芸術研究科	52	27			
産業科学技術研究科	44	17			
人間文化研究科	30	10			
学部	1,746	1,631			
芸術学部	405	397			
産業科学技術学部	410	293			
生命科学部	931	941			
大学院 (通信制)	120	14			
芸術研究科	20	5			
産業科学技術研究科	40	0			
人間文化研究科	60	9			
学部 (通信教育課程)	200	8			
産業科学技術学部	200	8			
千葉科学大学 (千葉県銚子市潮見町3)	2,347	1,790	104	52	156
大学院	57	33			
薬科学研究科	38	20			
危機管理学研究科	19	13			
学部	2,290	1,757			
薬学部	1,140	767			
危機管理学部	1,150	990			
岡山理科大学附属高等学校 (岡山市北区理大町1-1)	2,100	1,531	75	19	94
全日制	1,500	1,267			
通信制(1～3年定員:600名)	600	264			
岡山理科大学附属中学校 (岡山市北区理大町1-1)	240	156	16		16
岡山理科大学専門学校 (岡山市北区半田町8-3)	490	449	13	12	25
工業専門課程(建築)	120	96			
商業実務専門課程(映像情報)	0	0			
文化・教養専門課程(動物看護, トリミング, ドッグ, アット)	370	353			
文化・教養一般課程(トリミング, ドッグ, アット)	0	0			
玉野総合医療専門学校 (玉野市築港1丁目1-20)	560	452	33	8	41
医療専門課程(保健看護, 理学療法, 作業療法)	480	411			
教育・社会福祉専門課程(介護福祉)	80	41			
倉敷 食と器 専門学校 (倉敷市連島町西之浦2640)	100	34	5	4	9
衛生専門課程(高度調理, 高度製菓)	80	31			
文化・教養専門課程(器デザイン)	20	3			
合 計	13,463	11,946	635	348	983

※別科、専攻科等除く

財務関係

■資金収支計算書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	15,504,749,270
手数料収入	277,695,545
寄付金収入	42,001,677
補助金収入	2,621,707,237
資産運用収入	221,129,411
資産売却収入	426,029,999
事業収入	138,259,247
雑収入	497,485,435
借入金等収入	1,370,000
前受金収入	2,335,513,460
その他の収入	3,333,288,758
資金収入調整勘定	△ 3,085,086,388
前年度繰越支払資金	21,016,453,153
計	43,330,596,804

支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費支出	11,267,442,607
教育研究経費支出	3,758,913,843
管理経費支出	1,169,966,184
借入金等利息支出	135,445,565
借入金等返済支出	1,016,613,400
施設関係支出	321,125,230
設備関係支出	697,617,584
資産運用支出	2,667,210,000
その他の支出	1,866,036,233
資金支出調整勘定	△ 991,948,940
次年度繰越支払資金	21,422,175,098
計	43,330,596,804

■消費収支計算書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

消費収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金	15,504,749,270
手数料	277,695,545
寄付金	78,828,555
補助金	2,621,707,237
資産運用収入	221,129,411
資産売却差額	26,049,998
事業収入	126,771,909
雑収入	497,485,435
帰属収入合計	19,354,417,360
基本金組入額合計	△ 1,435,955,435
消費収入の部合計	17,918,461,925

消費支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費	11,267,442,607
教育研究経費	5,581,769,192
管理経費	1,661,993,330
借入金等利息	135,445,565
資産処分差額	51,324,317
消費支出の部合計	18,697,975,011
当年度消費支出超過額	779,513,086
前年度繰越消費支出超過額	13,124,827,867
翌年度繰越消費支出超過額	13,904,340,953

■貸借対照表（平成25年3月31日）

資産の部 (単位：円)

科 目	金 額
固定資産	58,638,730,850
有形固定資産	53,810,320,968
その他の固定資産	4,828,409,882
流動資産	23,224,287,361
資産の部合計	81,863,018,211

負債の部 (単位：円)

科 目	金 額
固定負債	12,204,293,209
流動負債	4,278,756,402
負債の部合計	16,483,049,611

基本金の部 (単位：円)

科 目	金 額
基本金の部合計	79,284,309,553

消費収支差額の部 (単位：円)

科 目	金 額
翌年度繰越消費支出超過額	△ 13,904,340,953
消費収支差額の部合計	△ 13,904,340,953
科 目	金 額
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	81,863,018,211

■財産目録（平成25年3月31日）

(単位：円)

科 目	金 額
一資産額	
(一) 基本財産	58,402,897,020
1. 土地	15,851,455,923
借地権	388,140,000
2. 建物	25,870,238,668
(1)校舎	20,178,366,946
(2)図書館	366,854,643
(3)体育館	2,393,897,158
(4)寄宿舎	410,140,434
(5)倉庫	21,635,224
(6)その他	2,499,344,263
3. 建設仮勘定	59,692,500
4. 構築物	1,530,127,357
5. 図書	6,705,432,778
6. 教具・校具・備品	3,766,734,702
7. 車両運搬具	26,639,040
8. 積立金	2,004,436,052
9. 特定資産	2,200,000,000
(二) 運用財産	23,460,121,191
1. 預金、現金	21,422,175,098
2. 出資金	94,859,400
3. 有価証券	960,629,833
4. 未収金	755,200,981
5. 仮払金	7,193,776
6. 差入保証金	140,974,430
7. 前払金	76,861,483
8. 貯蔵品	2,226,190
合 計	81,863,018,211
二負債額	
1. 固定負債	12,204,293,209
(1)長期借入金	8,348,082,000
(2)学校債	4,630,000
(3)退職給与引当金	3,851,581,209
2. 流動負債	4,278,756,402
(1)短期借入金	494,402,300
(2)学校債	3,230,000
(3)未払金	896,317,686
(4)前受金	2,335,513,460
(5)預り金	539,245,774
(6)仮受金	10,047,182
合 計	16,483,049,611

■財務比率

消費収支計算書及び貸借対照表に基づく財務比率について、下表で本学の経年比率を示しました。

区 分		21年度	22年度	23年度	24年度	
分類	比 率	算式 (×100)				
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総 資 金}}$	△9.5%	△11.2%	△15.9%	△17.0%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基本金要組入額}}$	86.7%	87.5%	88.5%	89.8%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金}}$	92.0%	90.7%	92.6%	89.7%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	78.3%	77.3%	76.9%	75.6%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	473.1%	564.5%	491.0%	542.8%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	788.5%	863.1%	907.1%	917.2%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	19.6%	18.8%	21.6%	20.1%
	負債率	$\frac{\text{総負債-前受金}}{\text{総 資 産}}$	16.5%	15.9%	18.8%	17.3%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金}}{\text{基本金要組入額}}$	77.5%	76.9%	73.6%	74.0%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	64.1%	60.5%	71.4%	58.2%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{消 費 支 出}}$	29.7%	30.7%	26.8%	29.9%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	9.2%	9.3%	10.0%	8.6%
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	106.2%	102.6%	113.3%	96.6%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	133.8%	127.3%	145.5%	120.6%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	79.4%	80.7%	77.9%	80.1%
	寄付金比率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.9%	0.7%	1.8%	0.4%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	14.0%	14.0%	14.5%	13.5%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$	1.4%	4.2%	6.2%	7.4%

■国庫補助金等

設置校名	①	②	③	(単位：千円)		
	経常費補助金	大型機器補助金	G P 等選定事業	その他国庫補助金	地方公共団体補助金	合計
岡山理科大学	977,816	210,030	52,217	17,012	540	1,257,615
倉敷芸術科学大学	474,990	7,847	16,439		4,079	503,355
千葉科学大学	371,341	6,212	13,529	1,054	131	392,267
岡山理科大学附属高等学校				8,343	372,581	380,924
岡山理科大学附属中学校					61,165	61,165
岡山理科大学専門学校					318	318
玉野総合医療専門学校					25,906	25,906
倉敷食と器専門学校					157	157
合計	1,824,147	224,089	82,185	26,409	464,877	2,621,707

①経常費補助金・・・私立大学等経常費補助金（一般補助、特別補助）

②大型機器補助金・・・私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））及び私立大学等研究設備整備費補助金（私立大学等研究設備等整備費）

③G P 等選定事業・・・大学改革推進等補助金（戦略G P、教育G P等）、科学技術総合推進費補助金等、文部科学省が選定し、支援を行う補助事業

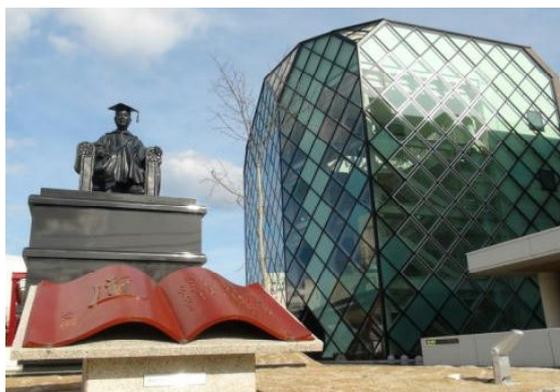
■受託研究・共同研究・科学研究費補助金

設置校等名	受託研究	共同研究	科学研究費補助金	
			件数	補助金額
岡山理科大学	30 件	20 件	53 件	102,830 千円
理学部	10	5	18	28,210
工学部	12	14	23	51,090
総合情報学部	1		5	7,930
生物地球学部	7		6	13,520
附属施設		1	1	2,080
倉敷芸術科学大学	6	7	7	10,790
芸術学部	1	2	2	3,120
産業科学技術学部	1	4	1	1,300
生命科学部	4	1	4	6,370
千葉科学大学	13	2	18	72,295
薬学部	7	0	11	23,660
危機管理学部	6	2	7	48,635
合計	49	29	78	185,915

平成24年度 事業報告

岡山理科大学

理学、工学、総合情報学のキーを駆使し、あらゆる学際領域を探求。地球を視野に高度なサイエンスを創造する。



1. 岡山理科大学は創立50周年に向け、新建物の建築計画を推し進めました。キャンパスを再開発し、教育・研究環境を充実させるとともに芝生広場等の憩いの場を創生します。特に、新

建物においては、質の高い学びの場を構築するため、自学自習環境を整備するとともに、食堂も充実させることで、学生の満足度の向上に努めました。

2. 教育面においては、カリキュラムの充実化を目指すとともに、FDに積極的に取り組み、高品質な講義の提供を行いました。また、教育に専念する教育講師を配属し、初年次教育を推進しました。

3. 研究面においては、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業等、競争的外部資金の獲得を目指しました。萌芽的研究や優秀な研究には、研究費の傾斜・重点配分による支援を行いました。

4. 学科入学定員の見直しや教育内容の改善等については、継続的に検討を行い、変更・改定を実施しました。

5. 大学基準協会の認証評価に向け、認証評価報告書を作成し、提出しました。将来へ向けての自己点検評価システムを構築し、機能させます。

6. 岡山理科大学は社会における役割を自覚し、大学コンソーシアム岡山等を通じた地域貢献事業を積極的に行い、研究成果および優秀な人材の供給によって広く社会に貢献しました。

岡山理科大学 学長 波田 善夫

教学の充実

■学生の多様なニーズへの対応

平成23年度学部卒業生1,020名に対して平成24年度学部入学生1,513名を迎え、学生数増加によって生じる学力の多様化など教学面の様々な課題に取り組みました。

学生の学力レベルに対応できる支援体制として、入学前教育、入門科目教育、学習相談を主な職務とする「教育講師」の職階を新たに設置しました。

また、平成24年度は、視覚障がい学生（全盲）と肢体不自由学生（車いす）を受け入れました。2名の学生が充実した学生生活を送ることが出来るよう、環境整備、修学支援、生活支援に取り組みました。

■新学務システムの稼働

平成24年度から新しい学務システムが稼働しました。新学務システムはインターネット利用によるWeb履修やポータルサイト（休講・補講・教室変更情報の検索、施設の予約）などの機能を備えており、学生や教職員に対するサービスの向上を目指しました。

■キャリア支援の充実

キャリア支援科目選択必修化の2年目にあたり、平成21年度から3年間実施された学生支

援推進プログラム「地方理工系大学における迅速で組織的な就職支援システムの構築」への取り組みを発展的に継続し、正課および正課外両面からのキャリア支援に取り組みました。

平成22年度に選定された大学生の就業力育成支援事業「ものづくり教育と地域連携による就業力育成」は平成23年度限りで廃止となりましたが、その取組について平成24年度も継続実施しました。また、文部科学省が平成24年度新規事業として予定している「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に参加しました。

■FD・SDへの取り組み

FD・SD講演会、FD・SDカフェ、授業アンケート、学習と生活に関するアンケート、授業公開などFD・SDへの取り組みを昨年度に引き続き実施しました。授業アンケートに関しては、学生満足度を高めるために有効な設問となるよう質問内容を大幅に変更しました。

■教員採用試験の支援

平成24年度の教員採用試験現役正規合格者は延べ32名、既卒者を含む正規合格者は延べ121名でした。平成24年度も教職ビデオ講座、教員採用模擬試験、OB・OGの受験報告書の閲覧、教育委員会への直接照会などさまざまな方策で、教員採用試験合格に向けた支援を行いました。

■B3群の設置

学部生のカリキュラムにB3群を新たに設置し、専門分野を超えた現代の科学技術の基礎知識を幅広く教育し、科学の振興につながる人材の養成を目指しました。「科学ボランティアリーダー養成科目」や「現代人の科学」などで構成しました。

■成績評価『秀』(S)の創設

本学の学習の評価基準を見直し、学生の学習意

欲を高めるため『優』『良』『可』『不可』の評価の上に新たに『秀』を加えました。また、学生の成績レベルをよりの確に把握できるようGPAの算出方法を変更し、より効果的な修学指導を目指しました。

学科・コース等新設

■生物地球学部生物地球学科 開設

総合情報学部生物地球システム学科を発展的に改組し、生物地球学部生物地球学科を開設しました。

生物地球学部生物地球学科は、生物や地球・宇宙に関して多様な興味を持つ学生に対して、①植物・園芸学、②動物・昆虫学、③地理・考古学、④地球・気象学、⑤天文学の5コースを設け幅広い教育を行います。教育課程は、従来の積上げ型教育編成ではなく、野外調査実習などの実験実習科目を教育課程の中心に据え、豊かなフィールドワーク経験を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力、計画性、創造性、柔軟性などのジェネリックスキルの育成を目指します。さらに個々の分野においても高い専門知識・技能を修得させることで多様化した現代社会のニーズに応える人材の育成を目指します。

■理学研究科動物学専攻 開設

理学部動物学科を基礎とする大学院理学研究科動物学専攻（修士課程）を開設しました。

動物学専攻では、理学部動物学科の4年間の教育を基礎とし、野生動物を対象とした国際的なレベルの教育研究を行います。また、人間の健康や生存に深く関わる哺乳動物を飼養し、その特性を明らかにすることによって、「種の保全」や「人類の生存」に繋がる教育研究を行っていきます。これらの教育研究を通じ、動物学に関する高度な学識を身につけることで、地球環境の保全と人間の健康と安全を守り、持続可能な社会を実現して

いく、広い視野をもつ人材の育成を目指します。

■入学定員の変更（変更分のみ）

《学部》

生物地球学部生物地球学科（定員100名、内30名定員増）設置に伴い、以下のとおり入学定員を変更しました。

総合情報学部 生物地球システム学科
70名→ 0名（募集停止）

生物地球学部 生物地球学科
0名→100名（30名定員増）

《大学院》

理学研究科動物学専攻（定員4名）設置および総合情報研究科シミュレーション科学専攻の学生募集停止に伴い以下の通り入学定員を変更しました。

理学研究科

応用数学専攻 7名 → 6名（1名減）
応用物理学専攻 14名 → 13名（1名減）
総合理学専攻 13名 → 12名（1名減）
生物化学専攻 14名 → 13名（1名減）
動物学専攻 4名（新設）

工学研究科

知能機械工学専攻 7名 → 8名（1名増）

総合情報研究科

情報科学専攻 6名 → 7名（1名増）
生物地球システム専攻 6名 → 7名（1名増）
シミュレーション科学専攻 3名 → 0名（3名減）
（募集停止）

文部科学省選定事業

■私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

1. 鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史

平成23年度に理学部が申請し、採択されました。本年度は補助期間5年計画の2年目の取り組みを行いました。

テーマ1：新しい物理的・化学的測定手法による地球環境変動評価

テーマ2：鉱物微小領域に記録された年代情報の解明、年代測定手法の高精度・高精度化、及びその応用

テーマ3：新たなルミネセンス手法による隕石の宇宙鉱物学的研究及び衝撃変成過程の定量評価

研究者数：8名

代表者：理学部 教授 豊田新

事業期間：平成23年度～平成27年度（5年間）

2. グリーン元素科学

平成21年度に理学研究科が申請し、採択されました。本年度は補助期間5年計画の4年目の取り組みを行いました。



テーマ1：汎用元素による新機能創出

テーマ2：元素のハイブリッド化による新物質創出

テーマ3：生体物質を利用した省元素資源

研究者数：17名

代表者：理学研究科 教授 森重 國光

事業期間：平成21年度～平成25年度（5年間）

3. QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成

平成24年度に工学研究科が申請し、採択されました。本年度は補助期間5年計画の1年目の取り組みを行いました。

テーマ1：生活支援機器によるQOLの向上

テーマ2：環境改善によるQOLの向上

研究者数：18名

代表者：工学研究科 教授 山田訓

事業期間：平成24年度～平成28年度（5年間）

■おかやま医療機器開発プロフェッショナル

平成20年度「科学技術戦略推進費」に採択された同プロジェクトは、工学部生体医工学科を中心とし、医療機器開発の



スペシャリストを養成するプログラムで、中間報告ではA評価を受けました。本年度は補助期間5年計画の最終年度の取り組みを行いました。

研究者数：15名

代表者：工学部 教授 林 紘三郎

事業期間：平成20年度～平成24年度（5年間）

■平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

取組名称：産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業

取組内容：中国・四国地域の18大学と中国経済産業局、四国経済産業局、中国経済連合会及び四国経済連合会をはじめ自治体、各県経営者協会、経済団体等が緊密な連携のもとに、大学教育を点検し、産業界等のニーズに応えうる人材養成の体制を充実させることにより、中国・四国地域の振興・活性化に資することを目的としています。本年度は補助期間3年計画の1年目の取り組みを行いました。

テーマ1：キャリア系授業科目の改善・充実

テーマ2：評価・指導方法の改善・充実

テーマ3：フィールド系教育の改善・充実

取組担当者：工学部 教授 滝澤 昇

事業期間：平成24年度～平成26年度(3年間)

■平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備事業

平成24年度に工学部プロジェクトコースが申請し採択されました。

取組名称：「サイエンスドリームラボによるフロンティア技術者教育の活性化」

取組内容：加工技術に関わる最新設備を整備し、現在のカリキュラムと融合することにより、「主体的な学びの姿勢」、「独創性」、「チームワークの意識」、「プロジェクトの企画力・実践力」などを体得した、真に社会貢献できるプロジェクトリーダーとなり得る技術者の養成を目指す取組です。

取組担当者：工学プロジェクトコース

教授 平野 博之

産官学連携

■外部資金の獲得

科学研究費補助金等の競争的研究費補助金、共同研究や受託研究等の外部研究資金の獲得を推進します。外部資金に関する情報収集に努め、説明会等を開催し、外部資金の獲得を目指しました。

■公的研究資金不正使用防止

公的研究資金の不正使用防止のため、ガイドラインの周知や獲得者への研修会を実施しました。また、公的資金で購入した物品の検収を行いました。

■知的財産化

1. 発明の知的財産化

研究者の職務発明を知的財産化することを目指し、職務発明審査委員会を通じて発明の発掘に努めました。今年度は、7件の職務発明がありました。

2. 特許セミナー

知的財産権セミナーを年数回開催し、研究者および学生の知的財産の理解のための研修を行いました。

■産業界との交流を活発化

地域産業界との交流行事に参加し、地元企業との連携を深めました。

1. 岡山県主催の「100社訪問」等の行事に参加し、地元企業との交流に努めました。

2. (株)日本政策金融公庫ビジネス交流会に参加しました。

3. おかやま信用金庫のビジネス交流会に参加しました。

4. 岡山市(岡山工業会・SEO等)等県内市町村とのビジネス交流会に参加しました。

5. トマト銀行をはじめ協定を締結した団体等との交流を実施しました。

6. 各種企業・異業種交流会等に参加し、産官学連携活動の広報活動を積極的に行いました。

7. 本学の紹介を兼ねて官庁や産業界からの見学依頼を受け入れました。

■大学間の交流

今年度より2年間、本学は大学コンソーシアム岡山の会長校となりました。会長校として、県内16大学のもとにある大学教育事業部、社会人教育事業部、産学官連携事業部を中心に大学連携を通じて岡山の活性化を目指しました。昨年度終了したG P事業『「岡山オルガノン」の構築』に関する事業も大学コンソーシアム岡山が継承しています。本年度は期間2年の1年目が終了しました。

■委託公開講座

岡山県からの委託による岡山県生涯学習大学大学院コース(全8回)を開講しました(8月から11月まで)。

■外部団体の委員等として協力

岡山県、および地方公共団体等の委員会等に委員として参画しました。

各委員会を通じて、産業界や官公庁への情報提供や連携を深め、社会貢献に努めました。

■研究成果の社会への発表について

1. 発表会の開催と参加

OUSフォーラム2012を11月に岡山市内で開催しました。著名な講師を招聘し、講演会や本学研究者のシーズ発表等を行いました。今年で12回目を迎えました。その他に東京等で開催される研究発表会で研究シーズを公開しました。

1) 「OUSフォーラム2012の開催」

(11月21日：岡山)

2) JST科学技術振興機構「新技術説明会」での発表

(東京)

3) 「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」

(9月10日：岡山)

2. 広報活動の実施

本学の研究成果を社会に周知することを目的に冊子「リエゾン」を発行し、広く配布しました。また、ホームページの運営等を通じ、積極的に研究内容の発信に努めました。

就職活動支援

■就職進路ガイダンス・各種セミナー

ガイダンスを3年次・修士1年次生に6回実施、4年次・修士2年次生に1回実施で計7回行いました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー等を時期に応じて開催しました。

1年、2年次生の低学年に対してのガイダンスも各年次毎に数回行い、3年次生に行うガイダンスへスムーズに移行できるようにしました。



■就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

就職筆記試験対策講座を実施しました。また、2、3年次生を対象に公務員試験対策講座を実施しました。就職筆記試験対策講座との整合性・学習内容の整理を行った上で開催・実施し、企業希望者と公務員希望者の実状に即した内容の提供を検討しました。

■合同企業説明会

学生が企業の採用担当者と面談する、学内合同企業説明会を開催しました。また、企業人事担当者や教職員との情報交換会である就職懇談会を岡山・東京・大阪・広島の各会場で開催しました。

■就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME (MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、vol. 0～4 を発刊しました。各年次において、ガイダンスで活用・解説しながら、入学時から一貫した指導を行いました。

■就活ダイアリーの発行

就活ダイアリーを発行・配布し、採用試験・面接・ガイダンス日程などのスケジュール管理や、就活マナー・活動事前準備などの確認に活用できるよう指導しました。3年次生・大学院1年次生の学生生活をトータルサポートしました。

■就職・進路懇談会

4年次生、3年次生とその保護者を対象に「就職・進路懇談会」を実施しました。各ゼミ担当教員と学生本人、保護者の3者で、就職環境の現状を伝えるとともに、就職を含む進路、成績などの相談会を実施しました。

ていきました。



■科学っておもしろい！

昨年に引き続き、理工系大学としての使命と考える「科学のおもしろさ」を伝える広報施策を展開しました。「ミニ図鑑」、「しおり」、「サイエンスレクチャー」の継続に加え、HP「サイバラ」を活用し広域に情報発信を行いました。

■岡山理科大の研究力！

企業など一般の方々に対して、テレビミニ番組、ホームページへの動画掲載等で岡山理科大学の研究力を積極的にアピールしていきました。

人事・組織

平成25年度入試

本学の入学者受入方針は、本学がもつ研究領域の学習を強く希望する学生と、高度な研究をめざす学生の確保です。平成25年度入試では、早期の入試で本学への入学意志を固めた生徒に対する、入学前のアドバイスや教育の強化を継続しました。また、受験生の立場に立ち、受験関係書類や入学関係書類の改訂を実施しました。

広報に関すること

■新中期戦略、スタート

コミュニケーションフレーズをVery Interesting! からSCIENCE DREAM GARDENへシフトアップしました。本学の「思想」を伝えるステップへ進め

■役職人事

平成24年4月より、学長として波田善夫教授が就任（再任）しました。

副学長は、管理運営担当に金枝敏明教授、教育研究担当に豊田真司教授が就任（再任）しました。

また、理学部長には高嶋恵三教授（再任）、工学部長には滝澤昇教授、総合情報学部長には濱谷義弘教授（再任）、生物地球学部長には星野卓二教授が就任しました。

なお、理・工・総合情報研究科長は、「岡山理科大学大学院研究科長選考に関する申合せ」に基づき、理・工・総合情報学部長が兼任しました。

■事務組織の改組

生物地球学部の開設に伴い、総合情報学部事務室を総合情報学部・生物地球学部事務室に改組し

ました。

また、外国人留学生も本学学生であるとの観点から学務部留学生課を廃止し、学務部学生課に統合しました。

主な行事

4月 2日	入学前オリエンテーション
4月 3日	入学宣誓式
4月 4日 ～ 7日	新入生・在学生オリエンテーション
4月14日	就職進路懇談会
5月12日 ～13日	皐月祭
6月10日	オープンキャンパス
7月 6日	七夕エコナイト
7月23日 ～8月3日	定期試験
8月 4日 ～5日	オープンキャンパス
9月 8日 ～ 9日 15日	教育進路懇談会（地方） 教育進路懇談会（本学）
9月13日	後期オリエンテーション
9月23日	オープンキャンパス
10月 7日	AO入試 専門学科・総合学科特別推薦入試Ⅰ期
11月 3日	特別推薦入試 専門学科・総合学科特別推薦入試Ⅱ期
11月10日 ～11日	推薦入試
11月21日	OUSフォーラム
11月22日 ～24日	半田山祭（大学祭）
12月16日	加計学園推薦入試
1月19日 ～20日	大学入試センター試験
1月22日 ～2月7日	定期試験
1月30日 ～2月1日	一般入試前期SA・SAB方式
2月19日	一般入試前期SB・B1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成24年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数			秋期入学 ※	
			留学生	社会人		留学生	社会人	社会人		
大学院	理学研究科 (博士)	13	5		39	12		1	1	
	理学研究科 (修士)	76	47		152	97		1		
	工学研究科 (博士)	5	0		15	6	4			
	工学研究科 (修士)	66	34	8	131	82	12	1		
	総合情報研究科 (博士)	2	1		6	3		1		
	総合情報研究科 (修士)	20	13	2	41	42	3	1		
大学院 計		182	100	10	384	242	19	5	1	
学部	理学部	応用数学科	95	114		360	458			0
		化学科	70	91		290	307			
		応用物理学科	70	58		280	269			
		基礎理学科	75	90		300	363			
		生物化学科	85	111		340	421			
		臨床生命科学科	85	120		340	413			
		動物学科	40	47		160	197			
		計	520	631		2,070	2,428	0	0	
	工学部	バイオ・応用化学科	75	84	1	300	371	2		
		機械システム工学科	85	108	2	340	390	16	1	
		電気電子システム学科	70	84		280	298	11		
		情報工学科	85	117		340	407	4		
		知能機械工学科	55	38	1	230	198	17		
		生体医工学科	60	60	9	240	193	24	1	
建築学科		70	84	3	140	146	6			
計	500	575	16	1,870	2,003	80	2			
総合情報学部	情報科学科	80	101	1	320	338	5			
	コンピュータシミュレーション学科 (募集停止)	—	—	—	—	—				
	生物地球システム学科 (募集停止)	—	—	—	210	241				
	社会情報学科	80	87	4	300	352	20			
	建築学科 (募集停止)	—	—	—	180	104	5			
計	160	188	5	1,010	1,035	30				
生物地球学部	生物地球学科	100	119		100	119				
	計	100	119		100	119				
学部 計		1,280	1,513	21	5,050	5,585	110	2	0	
総合計		1,462	1,613	31	5,434	5,827	129	7	1	
理学部理学専攻科		30	0		30	0				
教職特別課程		50	18		50	18				
留学生別科		60	9	9	60	9	9			

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成24年5月2日～平成25年3月31日)に入学した者です (単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成24年度)

区分	修了者・卒業生	満期退学	就職希望者	就職者	就職率	進学者	退学者・除籍者	休学者	留年者※	
			A	B	B/A					
大学院	博士	8	2	1	1	100%	0	3	0	5
	修士	148		117	103	88%	9	11	5	5
学部	1,032		661	597	90%	130	181	91	167	
教職特別課程	21		21	21	100%	0	0	0	0	

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成25年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	新日本製鉄(株) 住友金属工業(株)	JFEスチール(株) 積水ハウス(株)	(株)三井住友銀行 西日本旅客鉄道(株)	日亜化学工業(株) (株)クラレ岡山事業所	他
-------	-----------------------	------------------------	-------------------------	--------------------------	---

■教職員数

(平成24年5月1日現在)

理事長・総長	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	教育講師	助手	別科講師	教員計
1	1	2	171	65	29	3	2	1	1	276

事務職員	うち大学職員	うち本部職員
	190	111

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度科目	24年度決算額	前年度決算額
学納金収入	8,426,430	8,065,304
補助金収入	1,257,615	1,181,149
その他収入	635,681	554,717
帰属収入合計	10,319,726	9,801,170
基本金組入額合計	△ 645,233	△ 465,096
消費収入の部合計	9,674,494	9,336,074
人件費	5,243,782	6,462,872
教育研究経費	2,650,071	2,722,141
管理経費	540,731	603,596
その他支出	126,083	138,371
消費支出の部合計	8,560,667	9,926,980

■施設設備整備（抜粋）

40年を経過し老朽化が目立つ建物、施設については、建て替えを検討し、トイレについては改修工事を行いました。

また、装置・設備については、補助事業に基づき購入する機器や改組新設した学科の設備等を計画に基づき整備しました。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
前島臨海教育施設新築工事	27,060
第20号館1階トイレ改修工事	10,859
第21号館1・2階トイレ改修工事	25,091
第11号館3～5階トイレ改修工事	24,810
第14号館1・3・4階トイレ改修工事	9,116
第27号館1階共通実験室機器設置設備工事	4,893
御津国際交流会館地上式オイルタンク設置工事	1,900
落石防止フェンス設置工事	920
エスカレーター下部目隠しフェンス設置工事	752
新建物関係工事設計料、他(建設仮勘定)	43,785

主な装置・設備関係

(鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史事業による大型機器)

事業名	金額
LD励起CWグリーンレーザー (補助内定額：6,650)	9,975

(QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業による大型機器)

事業名	金額
ハイスピードデジタルビデオ収録システム (補助内定額：15,120)	22,680
FORTUS360mc-S造形システム (補助内定額：12,649)	19,950
超高分解能電界放形走査電子顕微鏡システム (補助内定額：25,550)	38,325
マイクロPIV計測システム (補助内定額：21,884)	34,797
光学干渉計観測・計測システム (補助内定額：15,610)	23,772
超音波3次元ロケーションシステム ZPS-3D (補助内定額：6,734)	10,101

(サイエンスドリームラボによるフロンティア技術者教育の活性化による大型機器)

事業名	金額
複合材加熱硬化形成用オートクレーブ	20,580
X線応力測定装置	9,870
ニュータイプ汎用フライス盤	8,663
3次元高精度形状測定システム	6,003
高機能形熱画像カメラ	4,128
(補助内定額：49,215)	(合計:49,244)

(その他の大型機器)

事業名	金額
超高感度MALDI TOF/TOF MS autoflex speed TOF/TOF (補助内定額：25,764)	56,700

主な届出・申請関係

事業名	金額
生物地球学部 21号館屋上天文観測室設置工事	1,647
生物地球学部 機器・器具 (創設費)	15,036
生物地球学部 図書・雑誌 (創設費)	165
グリーン元素科学共同研究	55,836
鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史共同研究	16,542
QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業共同研究	34,393

平成24年度 事業報告

倉敷芸術科学大学

3年後の創立20周年を前にして、教職員が一体になり、地域と協力して、地域の活性化に役立つ学生を育てることに努力します。



芸術、産業科学技術、生命科学の3つの学部の教育内容を、時代と地域の要請に応えられる形に組み替えるため、外部諮問委員会を結成し、地域の方のご意見をお聞きする機会をもちました。

3つの学部の連携を強化して、学生が芸術、産業科学技術、生命科学のどの学部の講義もこれまで以上に取りやすくし、幅広い知識と柔軟な思考力を持つ学生の育成を引き続き行っていきます。

一般教養教育をこれまで以上に重視して、地域で活躍することができる常識と教養を身に着けた学生を継続して育てていきます。

遠隔地通信教育システムを使って他大学の講義を聴くことで単位を取得できるようにし、学生の多様な要望に応えられるように検討しました。

学生の健康を守るために大学構内の全面禁煙を実施し、大学キャンパスが学生にとって勉強しやすく楽しめる空間になるように努めました。

倉敷芸術科学大学 学長 唐木 英明

教学の充実

■キャリア教育

平成18年度から3年間、現代GPで培ったスキルをもとにさらに発展させ、「倉敷まちづくりプログラム」と位置づけ、前年度に引き続き前に踏み出す力、チームで働く力、考え抜く力を養うための職務体験を通して、課題発見力・実行力・状況把握力等、自らの役割を見つけ、積極的に自立・挑戦していけるキャリアの形成や社会人に求められる基礎的能力を高める教育の実践に努めました。

■産官学連携教育

倉敷市の推進する中心市街地活性化事業や経済産業省所管の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業と協力し、都市づくり、産業、観光振興など地域と連携した人材育成に努めました。また、デザイン・映像分野では企業や行政機関から依頼される製品デザイン・CM等の製作により、学生の意欲向上をめざした生きた課題授業を実践しました。

■高大連携教育

文部科学省SSH(スーパーサイエンスハイスクール)採択校の岡山県立玉島高等学校とはIT科学や生命科学分野、岡山県立総社南高等学校・香川県立高松工芸

高等学校および広島県立熊野高等学校とはキャリア教育や美術工芸分野、岡山理科大学附属高等学校とは美術工芸、デザイン、アニメーション、IT科学分野での連携を引き続き行い、大学、高校間の境目のない接続教育と本学の教育理念「芸術と科学の協調」の実現に努めました。また、主としてSSH採択校や教育提携校の生徒に対して、夏季休業中に大学の研究室で課題研究の一環として実験・実習や制作を行う「研究室入門プログラム」を開設し、高校生の創造性・独創性を培い研究能力を高めるよう高校との連携強化に努めました。

■初年次教育

昨年度に続き、学習支援センターを中心に入学前の新生生に対し、課題をまとめた「Learning Support(入学前教育課題集)」や「学習支援センターだより」を作成、送付し、新生生が大学生活に期待や希望を抱いて入学できるよう、入学前準備教育を充実させました。入学後は、1年次対象に前・後期基本英語、基本数学、基本化学、基本物理の4科目8単位の修得を可能とし、学生一人一人の学力に応じた個別相談ができる態勢を加えることにより、初年次教育を充実させるよう努めました。

教育改革支援事業

■大学コンソーシアム岡山

文部科学省「大学改革推進事業」として採択された「岡山オルガノンの構築」（平成21～23年度）の諸事業が大学コンソーシアム岡山に継承されます。大学コンソーシアム岡山は「時代に合った魅力ある高等教育の創造」と「活力ある人づくり・街づくりへの貢献」を目的としています。岡山県内の16大学が連携し（1）大学相互の協力と情報交換、（2）地域社会との交流と生涯学習の推進、（3）地域高校との連携、（4）地域創生学の

構築、（5）地域発信による国際交流を行ってまいります。本学は連携の中で、相互単位互換としてE-learningで開設する倉敷まちづくり科目を3科目提供しました。

■産業界のニーズに対応した教育改善

平成22年度文部科学省「大学生の就学力育成支援事業」に採択され、キャリアセンター(旧就職部)・学務部(旧学生部, 旧教務部)・学習支援センター・健康管理センターの5つの部署が連携した複合的な就業支援体制の構築、また、両備グループなど産業界と連携した産学実践教育を行ってきましたが、この事業が平成23年度で廃止となりました。しかし、平成24年度より新たに「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」として事業形態を変え継続されることになり、平成24年7月に島根大学を中心に中四国の18大学が連携して申請し、9月に選定が決定されました。

学科・コース等新設

■別科

併設の「倉敷食と器専門学校」を大学の別科へ再編することに伴い、従来からの留学生別科(倉敷・神戸)に加え、フードサイエンス分野の技術および知識を習得した人材の育成をめざす調理師別科(1年コース)入学定員40名、製菓衛生師別科(2年コース)入学定員40名を設置しました。

■美術工芸学科

芸術を通じて社会に参画・貢献・活躍できる人材を育成をめざし「美術」と「工芸」の融合による既成の枠を超えた新しい制作表現の可能性を追求する美術専攻と工芸専攻、芸術のスキルを活かして就労するためのカリキュラムを自身で設計する芸術キャリアデザイン専攻の3専攻を設置しました。

■デザイン学科

それぞれのデザイン分野の専門性と分野を融合した総合的なデザインアプローチを通じて、デザイン提案ができる人材の育成をめざし、イラストレーション・グラフィックデザイン専攻、空間・プロダクトデザイン専攻、ファッション・テキストデザイン専攻の3専攻を設置しました。

■メディア映像学科

進化するメディアに対応した専門性の高い指導でメディア技術とコンテンツビジネスを総合的に理解し、質の高いコンテンツを創造するクリエイターの育成をめざし、マンガ・アニメ専攻、ゲーム・Webデザイン専攻、映像・写真専攻の3専攻を設置しました。

申請・届出関係

■学部組織

芸術学部メディア映像学科において、平成25年度より従来の「映像・写真専攻」を「映像・放送専攻」に変更し、他のメディアとの連動も視野に入れた総合的なディレクションのできるクリエイターの育成と新たに独自のセンスで魅力的な作品を生み出す作家や応用力・発想力を持つクリエイターを育成する「コミックイラスト専攻」を設置しました。産業科学技術学部においては、学科構成等の見直しを進め、社会の要望に応じて長く存続するよう組織の組み替えを検討しました。また、生命科学部においては、改革意識を高め、組織の充実を図りました。

■入学定員の見直し

学部学科、大学院修士課程の入学定員および編入学定員について、学生数と教員数に応じた定員数への見直しを検討しました。

受賞・課外活動

■主な受賞

- 第14回雪梁舎フィリッツェ賞展 佳作1名
- 2012京展 入選1名
- 第6回前田青頓記念大賞展 奨励賞1名
- 第63回岡山県美術展覧会
 - 洋画部門 入選1名
 - 日本画部門 山陽新聞社賞、岡山県教育長賞、県展賞3名、入選1名
 - デザイン部門 山陽新聞社賞、岡山県知事賞、岡山県教育長賞、県展賞1名、入選7名
 - 工芸部門 県展賞1名、入選1名
- 再興第97回院展 入選1名
- 第37回JPS展（日本写真家協会展）入選1名
- 平成24年度民謡民舞全国大会
 - 文部科学大臣賞・内閣総理大臣賞
- 第29回外国人による日本語弁論大会（岡山）
最優秀賞

■部活動報告

- アーチェリー部
 - 中四国学生アーチェリー新人選手権大会 女子個人2位
- 空手道部
 - 中四国空手道選手権大会 個人型3位
- 柔道部
 - 中四国学生柔道優勝大会 男子団体2部3位
- バスケットボール部
 - (男子)中国大学バスケットボール選手権春季大会 2位
 - 中国学生バスケットボール大会新人大会 4位
 - (女子)中国大学バスケットボール選手権春季大会 2位
 - 中国学生バスケットボール大会新人大会 3位
 - 国民体育大会成年女子バスケットボール岡山県選抜チーム 5位（3名選抜）
- 陸上部
 - 中四国私立大学対抗陸上競技選手権大会
 - 男子4×100m 3位、男子100m 3位、男子400m 3位
 - 女子400m 3位

- フィギュアスケート同好会
日本学生氷上競技選手権大会(全日本イカ)
女子Aクラス 13位、女子Cクラス 12位
- 西日本学生フィギュアスケート選手権大会
女子Aクラス 8位、女子Cクラス 2位

学生募集

平成24年度の学生募集は、次のとおり実施しました。

- (1) 重点地区・加計グループ力を利用した広報戦略
- (2) ホームページの充実
 - ① モバイル（携帯電話）版ホームページの充実
 - ② 留学生対象のホームページの充実
- (3) 大学トピックスのタイムリーな公開
- (4) 満足度・知名度アップ

就職活動支援

■就職ガイダンス・就職対策講座等

就職ガイダンスは、3年次生・修士1年次生を対象に年間15回実施しました。早期から学生の就職に対する意識の向上を促すため、3年生の前期から実施し、OB・OGの体験報告会や4年次生の内定者報告会をはじめ、マナー・メイク講習、個人／集団面接トレーニングや集団討論トレーニングのほか、企業担当者を招いての業界研究会なども取り入れて実施しました。就職対策講座を12月に実施し、履歴書作成や小論文対策等を集中的に実施しました。また、公務員採用試験対策講座を通年で実施し、公務員希望者の支援をしました。

■職業適性等

3年次生対象に、年2回（7月・10月）SPI適性模擬検査を実施し、学生が自分の基礎能力を知ることにより、採用試験に向けた対策に反映せました。また、11月には就職実践模試（一般常識・

基礎学力テスト）やエントリーシート攻略テストを実施するなど、実際の就職試験に備えました。

■就職支援

就職関連情報を、学内主要箇所に設置した大型表示モニターにリアルタイムで表示するとともに、学生の携帯電話やパソコンにメールで配信し、適時に情報を提供しました。また、学生は本学向け求人情報をキャリアセンターホームページや携帯サイトで閲覧できるほか、学生控室に設置した求人情報検索用タッチパネルでも常時閲覧可能としています。採用試験に向けた面接指導や履歴書指導のほか、就職に関する相談もキャリアセンターで随時受付し、学生に対するきめ細やかな就職支援を行いました。

■就職懇談会

企業担当者と教職員が情報交換を行う、加計グループ合同の就職懇談会を、東京（11月）、広島・大阪（3月）で開催し、就職先の開拓や採用情報の入手に努めました。また、2月には企業担当者を本学に招いて行う学内就職懇談会を開催し、参加企業と学生との面談会、教職員との情報交換会を実施しました。

組織等

■大学改革室

大学改革を行うため、学長直轄の事務組織として設置しました。今年度は、時代に応じた新学科の設置、教養教育の再構築、地域貢献を念頭におき、改革を進めました。

主な行事

4月 5日	入学宣誓式
4月 6日 ～11日	新入生・在学生オリエンテーション
4月 8日	大学院（通信制）入学宣誓式
4月12日	前期授業開始
4月14日	霞祭
6月10日	来て見ん祭（オープンキャンパス）
7月28日 ～29日	オープンキャンパス、教員免許状更新 講習
8月 2日 ～ 7日	前期定期試験
9月15日	教育懇談会（地方会場）
9月20日	後期オリエンテーション
9月21日	後期授業開始
9月22日	教育懇談会（本学会場）
9月23日	学部・通信教育課程学位記授与式
9月28日	留学生別科1年半コース入学宣誓式
9月29日	オープンキャンパス
10月27日 ～28日	芸科祭
11月14日	就職懇談会（東京会場）
2月 5日 ～ 9日	後期定期試験
2月12日	就職懇談会（本学会場）
3月 1日	就職懇談会（広島会場）
3月 8日	就職懇談会（大阪会場）
3月23日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成24年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数		秋期入学 ※			
			留学生	社会人		留学生	社会人				
大 学 院	芸術研究科(博士)	4	3	2	0	12	12	3	1		
	芸術研究科(修士)	20	7	0	1	40	15	0	1		
	産業科学技術研究科(博士)	4	2	0	0	12	5	0	0		
	産業科学技術研究科(修士)	16	3	0	0	32	12	0	0		
	人間文化研究科(修士)	15	5	5	0	30	10	8	0		
大学院 計		59	20	7	1	126	54	11	2	0	
学 部	芸 術 学 部	美術学科	(募集停止)	—	—	—	0	2	0	0	
		美術工芸学科	35	25	1	0	150	106	3	0	
		メディア映像学科	35	35	2	0	125	147	9	0	
		デザイン学科	35	29	0	0	130	142	2	0	
		計	105	89	3	0	405	397	14	0	
	技 産 業 学 科 部 学	IT科学科	(募集停止)	—	—	—	60	38	1	0	
		起業経営学科	(募集停止)	—	—	—	60	44	32	0	
		経営情報学科	50	44	20	0	110	81	47	0	
		観光学科	45	20	8	0	180	130	65	1	
		計	95	64	28	0	410	293	145	1	
	生 命 科 学 部	生命科学科	45	37	1	0	180	189	1	0	
		健康科学科	55	41	0	0	230	211	0	0	
		生命動物科学科	65	66	0	0	276	284	0	0	
		生命医科学科	50	55	0	1	185	223	0	2	
		健康医療学科	30	14	0	1	60	34	0	2	
計	245	213	1	2	931	941	1	4	0		
学部 計		445	366	32	2	1,746	1,631	160	5	0	
通学制 合計		504	386	39	3	1,872	1,685	171	7	0	
大 学 院 (通 信 制)	芸術研究科(修士)	10	1	0	1	20	5	0	2		
	産業科学技術研究科(修士)	20	0	0	0	40	0	0	0		
	人間文化研究科(修士)	30	3	0	3	60	9	0	8		
計		60	4	0	4	120	14	0	10	0	
学部 (通 信 教 育 課 程)	産業科学技術学部	(募集停止)	—	—	—	200	8	0	2		
計		—	—	—	—	200	8	0	2		0
通信制 合計		60	4	0	4	320	22	0	12	0	
総合計 (通学制+通信制)		564	390	39	7	2,192	1,707	171	19	0	
別 科	留学生別科	60	8	8	—	80	19	19	—	17	
	神戸留学生別科	190	10	10	—	190	10	10	—	—	
	調理師別科	40	9	0	1	40	9	0	1		
	製菓衛生師別科	40	14	0	0	40	14	0	0		
	別科 計	330	41	18	1	40	14	0	0	17	

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成24年5月2日～平成25年3月31日)に入学した者です (単位:人)

■ 卒業生数等一覧

(平成24年度)

区分		修了者・ 卒業生	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	0	2	0	0	0%	-	2	0	0
	修士	22	-	10	10	100%	3	1	0	0
学部		378	-	219	209	95%	26	71	18	33
大学院（通信制）		6	-	-	-	-	-	1	0	2
学部（通信教育課程）		6	-	-	-	-	-	0	0	2
別科	留学生	20	-	-	-	-	16	21	0	2
	調理師	8	-	8	6	75%	-	1	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成25年4月1日現在）

（単位：人）

主な就職先	近畿日本ツーリスト(株)、JTB九州(株)、(株)京都アニメーション、山陽映画(株)、平喜酒造(株)、(株)ローソン、 (株)イグレットファーム、姫路セントラルパーク、日本赤十字病院、神戸大学附属病院、岡山県警本部、倉敷市消防局 東京消防庁、防衛省、(株)倉敷アイビースクエア、メルパルク岡山、山陽フットサービス、シタックスフットサービス
-------	---

■ 教職員数

(平成24年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	2	68	24	13	5	1	4	118	63

(単位：人)

財務関係

■ 消費収支

(単位：千円)

年度 科目	24年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	2,536,518	2,651,761
補助金収入	503,355	487,560
その他収入	105,852	280,446
帰属収入合計	3,145,726	3,419,767
基本金組入額合計	△ 198,390	△ 249,555
消費収入の部合計	2,947,336	3,170,212
人件費	2,135,710	2,920,277
教育研究経費	997,344	1,085,271
管理経費	253,244	278,942
その他支出	19,022	26,267
消費支出の部合計	3,405,320	4,310,757

■ 施設設備整備（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
2号棟廊下LED照明器具更新	2,205
22号棟1階講義室改修工事	3,700
16号棟1階4159室改修工事	483
大学名表示看板設置工事 来年度着工予定（建仮のみ計上）	5,000
厚生会館改修工事	108,047
有機化合物の構造解析装置(FT-NMR)	74,600
前眼部3次元光干渉断層計	11,771
図書館システムサーバ機器の更新	7,000
プロジェクター装置一式	1,432
健康医療学科機器 [創設経費]	3,000
健康医療学科図書 [創設経費]	298

平成24年度 事業報告



「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる
人材の養成を行う



学生ひとりひとりの能力を最大限に伸ばすために教職員が一致団結して教育にあたり、学生の満足度を高められるよう、また地域との関わりを深め、

存在感を高められるように努力しました。

具体的には、

1. 本年度、4年間の大学運営に関する中期目標を定め、実現のために努力しました。
2. 危機管理学部の動物・環境システム学科を環境危機管理学科と動物危機管理学科とに再編して新入生を受け入れました。
3. 初年次学生の教育を、学部の壁を取り除いて、全学を挙げて効果的に行えるように変更しました。
4. ボランティアセンターを設置して、災害発生時に直ちに対応できる体制を作ります。
5. 銚子のすぐれた地質遺産を「銚子ジオパーク」として、世界および日本ジオパーク登録を目指す事業を支援しました。

この他、第3の学部として、看護学部を平成26年度の設置を目指し、平成25年5月に申請します。

千葉科学大学 学長 赤木 靖春

教学の充実

■大学の目的、各研究科、各学部の目的

学園建学の理念に基づき、大学の目的を教育では『健康で安全・安心な社会の構築』に寄与できる人材の育成、研究では『健康で安全・安心な社会の構築』の探求、社会貢献では‘地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参画’と定め、行っています。

各研究科各専攻においては教育研究上の目的をそれぞれ定め、各学部各学科もそれぞれ教育目標を設けて、達成に向かって邁進しました。

■CISフォーラム

1 1月24日（土）銚子商工会議所にて、最新の研究成果やシーズを紹介するイベントを初めて開催しました。2学部7学科から、教員14名と学生9名が発表者として参加し、150名を上回る来場者がありました。

■高大連携

- 1) 7月7日に敬愛大学八日市場高等学校の自然科学部員13名が「中高生の科学部活動振興プログラム」としてトウキョウサンショウウオのミトコンドリアDNA解析実習に取り組みました。
- 2) 10月22日に県立銚子高校の1年生約200名が大学を訪れ、模擬講義を受けました。

平成25年度に向けて

平成25年度より危機管理学部の航空・輸送安全学科の名称変更を行いました。

平成25年度
危機管理学部

平成24年度

工学技術危機管理学科 ← 航空・輸送安全学科

地域連携・社会貢献

■銚子ジオパーク

銚子市にある屏風ヶ浦の地層、犬吠埼の浅海堆積物などの優れた貴重な地質遺産を後世に残すと共に観光資源としても活用し、地域住民の郷土愛の育成、環境意識の向上、地元の中学生への良質な地学教育の提供等、銚子市と協力して銚子ジオパーク構想を推進致しました。その結果として、平成24年9月24日にジオパークに認定されました。

この構想を通して地元の中学生・高校生に地元の地質資源の理解及び普及活動を行い「地育地就」にも貢献しました。

■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望もあり、昨年に引き続き教員免許状更新講習を実施しました。

■市民公開講座の開催

これまでの図書館公開講座（図書館主催）を大学主催の公開講座とし、銚子市及び銚子市教育委員会の後援を頂き規模を拡大して開催しました。

○第1回 10月4日（日）

「自然からの贈り物」—医薬品に利用される身近な植物たち— （参加者79名）

○第2回 11月18日（日）

肥満がなくても「メタボリックシンドローム？」

（参加者80名）

○第3回 1月12日（土）

「地球温暖化を考える」—環境危機管理の視点から— （参加者51名）

○第4回 2月24日（日）

身近なくすりの飲み方、飲み合わせ

（参加者134名）

■銚子市消防団実戦操法大会

7月1日（日）、千葉科学大学マリーナキャンパス前駐車場で開催されました。日頃の訓練の成果を学生消防隊が披露しました。

■青少年のための科学の祭典への参加

茨城県内の小中学生を中心としたイベントである『青少年のための科学の祭典』に参加しました。

■教育提携校締結の拡大と関係強化

現在17校との協定を結んでいます。新たに東総地区の高校との提携を手始めとして、東日本の受験実績が継続している指定校との教育提携を強化しました。また、現在締結している提携校に対しては、出張講義、オープンキャンパスは勿論、PTA総会等への働きかけも行いました。また、入学式・卒業式などお互いの学校行事に教職員が参加し合える体制を作りました。

■ボランティア活動

1) 巨大竜巻の被害を受けたつくば市北条地区に災害ボランティアとして「学生消防隊」と「スターラビッツ」ら学生24名、学生OB・職員5名が瓦礫などの片づけを行いました。

2) 昨年に引き続き災害ボランティアが2回にわたり、岩手県沿岸部で瓦礫の撤去、福祉施設での交流、草刈りなど多岐に渡る活動に従事しました。

就職活動支援

■就職支援

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや、様々な業界を知る業界セミナーを学内で開催しました。また、3年次生（薬学科は5年次生）全員との個人面談を実施し、個別指導を行いました。

■インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏季休暇中に1～2週間の就業体験を実施しました。

■合同企業説明会

採用担当者と本学学生がブース別に面談する合同企業説明会を2回（12月、2月）学内で開催しました。

■キャリア支援

キャリア支援科目にスタッフを派遣し自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に伝えていきました。

■公務員試験対策

2月から3月にかけて公務員採用試験の筆記対策として基礎講座（主に1・2年次対象）、実践講座（3年次対象）を開講しました。また、筆記試験合格者に対して、面接対策セミナーを実施しました。

業者主催公務員模擬試験を学内で実施しました。

■各種資格取得支援

防災士、危険物取扱者、秘書検定、潜水士などの試験対策講座を開講し、資格取得試験を学内で実施しました。

■就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行いました。特に銚子市周辺の地元企業の開拓に努めました。また、加計グループ5大学1短大共催の企業懇談会（東京、大阪、広島）を開催しました。

学生支援

■心の教育

7月5日（木）に実験動物慰霊祭が行われました。実験のために尊い犠牲となった動物の御霊に対して、参加者全員による献花を行いました。

■千葉県、茨城県の通学圏の高校に対するスクールバスの運行

今年度は、鹿島神宮（茨城）一本学間（利根川北側）に加え、北総地区の佐原一本学間（利根川南側）のスクールバスの運行を開始しました。

■県人会の発足

学友会に県人会を組織したことに伴い、県人会に各県担当者を配置し、在学生、出身校との関係を強化し、顔の見える広報活動、高大一貫した教育活動につなげていけるよう努めました。

■入学前教育

入学前に合格者やその保護者を集い、ミニキャンパスツアーを開催しました。大学の案内や質疑応答をおこない、入学前の不安解消と本学への理解の促進に努めました。

広報に関すること

日本初の危機管理学部を擁することを強みに、

『人を助けたい、という人の大学』をキャッチフレーズに両学部をアピール、また消防官、警察官など公務員に強い大学であることも強調して、学生募集を行いました。

- (1) オープンキャンパス
- (2) e-広報の充実
- (3) 支局長による広報活動の強化
- (4) 留学生の募集充実
- (5) 常時学内を見学
- (6) 地元の各種団体との連携
- (7) 出張講義の拡大と内容の充実

人事関係

■副学長の変更

宮林正恭氏に代わり吉川泰弘氏及び伊永隆史氏が副学長に就任しました。(平成24年4月1日)

■学部長の変更

濱名洋氏に代わり細川正清氏が薬学部長に、藤谷登氏に代わり坂本尚史氏が危機管理学部長に就任しました。(平成24年4月1日)

■ボランティアセンター設置

ボランティアセンターを立ち上げ、当該センター長に藤谷登氏が就任しました。
(平成24年4月1日)

主な行事

4月 2日	在学学生前期オリエンテーション
4月 7日	入学宣誓式
6月 3日	オープンキャンパス
7月28日 ～29日	オープンキャンパス
7月25日 ～8月 7日	前期定期試験
8月 4日 ～ 8日	教員免許状更新講習会
8月25日	オープンキャンパス
9月 8日	教育進路懇談会 (地方)
9月15日	教育進路懇談会 (本学)
9月18日	後期オリエンテーション
9月30日	オープンキャンパス
11月17日 ～ 18日	青澄祭 (大学祭)
11月23日	CIS7フォーラム
12月15日	合同企業説明会
1月22日 ～2月 4日	後期定期試験
3月25日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成24年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数		秋期入学 ※	
			留学生	社会人		留学生	社会人		
大 学 院	薬学研究科（博士一貫）	3	1	0	3	1	0	0	
	薬学研究科（博士）	5	0	0	15	5	0	0	
	薬学研究科（修士）	10	4	0	20	14	0	0	
	危機管理学研究科（博士）	3	0	0	9	2	0	0	
	危機管理学研究科（修士）	5	3	1	10	11	5	0	
大学院 計		26	8	1	57	33	5	0	
学 部	薬学科（6年制）	120	81	3	920	644	13	4	
	薬科学科 (募集停止)	—	—	—	40	27	0	0	
	動物生命薬科学科 (募集停止)	—	—	—	40	24	0	0	
	生命薬科学科	40	18	0	140	72	2	0	
	計	160	99	3	1,140	767	15	4	
	危 機 管 理 学 部	防災システム学科 (募集停止)	—	—	—	0	4	1	0
		環境安全システム学科 (募集停止)	—	—	—	0	3	1	0
		危機管理システム学科	100	113	30	405	397	107	0
		動物・環境システム学 (募集停止)	—	—	—	190	126	14	0
		環境危機管理学科	40	40	4	40	40	4	0
医療危機管理学科		80	100	0	350	340	0	0	
航空・輸送安全学科		40	7	0	125	39	9	0	
動物危機管理学科	40	41	0	40	41	0	0		
計		300	301	34	1,150	990	136	0	
学部 計		460	400	37	2,290	1,757	151	4	
総 合 計		486	408	38	2,347	1,790	156	4	
留学生別科		40	12	12	40	15	15	0	

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成24年5月2日～平成25年3月31日)に入学した者です (単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成24年度)

区分	修了者・ 卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	15	12	10	83%	2	3	0	4
学部	371	291	264	91%	12	65	36	66

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成24年4月1日現在) (単位:人)

主な就職先	クオール、クラフト、くすりの福太郎、日本ペーリカー・インゲルハイム、杏林製薬、戸田中央医科グループ、東京消防庁、横浜消防局、警視庁、千葉県警察本部、神栖市役所、三井住友銀行、国立がん研究センター、板橋中央総合病院他
-------	---

■教職員数

(平成24年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員計	事務職員
1	2	54	20	13	11	3	1	105	52

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	24年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	2,811,139	2,741,435
補助金収入	392,268	695,499
その他収入	111,868	205,645
帰属収入合計	3,315,275	3,642,579
基本金組入額合計	△ 63,991	△ 15,635
消費収入の部合計	3,251,284	3,626,944
人件費	1,796,030	2,244,762
教育研究経費	1,316,251	1,515,771
管理経費	394,436	466,870
その他支出	1,109	22,239
消費支出の部合計	3,507,826	4,249,642

■施設設備整備（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
創設図書	700
航空輸送安全学科創設事業年次進行分	
創設備品	1,000
航空輸送安全学科創設事業年次進行分	
プロジェクター設置 1号館・5号館講義室	3,700
プレハブ倉庫	500
ボランティアセンター用具収納	
銚子ジオパーク看板設置	1,500
医療危機管理学科実験実習用機器	3,203
ガス給湯設備設置他改修工事	1,600
大学院東京サテライト教室用机・椅子	950
FRIGO-Mクローラロボット (補助内定額：2,039)	5,985

平成24年度 事業報告

附 岡山理科大学附属高等学校

建学の理念の原点に立ち返って、これまで以上に、生徒・保護者・地域社会から信頼される学校づくりを推進します。



- 1) 生徒一人ひとりの学力を向上させ、満足のいく進路実現を保証。
- 2) 礼儀正しく、品位ある生徒の育成。
- 3) 教員の意識改革及び資質

向上を図り、安心して子供の教育を任せられる学校であるとの評価を確立。

上記の目標を念頭に置き、学力向上と進路実現のため、授業改善・学習支援に取り組むとともに、関連大学との実効性のある高大連携を推進し、関連大学への進学者の増加を図りました。また、品位ある生徒の育成のため、挨拶の励行、身だしなみの指導、遅刻の防止に努めました。

危機感をバネに、学校組織、学校運営を改革し、教職員の意識の活性化を図るため教職員研修にも力を入れ、教職員集団が、それぞれの持ち味を活かしながらチームワークを発揮し、充実した教育活動が実践できるように努めました。

なお、信頼される学校づくりのため地域社会との交流の機会を増やし、それに加えて時代や社会のニーズに対応した科・コースの特色・魅力アップを実施していきました。

岡山理科大学附属高等学校 校長

宮垣 嘉也

教学の充実

SSH校としての取り組み

今年度SSH校として採択され、第1年次として計画した研究開発事項の実施に取り組みました。

- 1) 自然科学体験の重視
- 2) 理数カリキュラムの増設
- 3) 科学における国際性の涵養
- 4) 高大連携の深化のための実践
- 5) 科学的才能の発掘と慎重のための教育的評価法の研究開発

関連校との連携による質の高い教育の提供

■出張講義の活用

- ・進学理大コース（岡山理科大学全学科より）
- ・健康・スポーツコース
（倉敷芸術科学大学健康科学科より）
- ・アニメ・デザインコース
（倉敷芸術科学大学芸術学部より）
- ・生命動物コース
（岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・岡山理科大学専門学校の生命・動物系学科より）
- ・機械科、電気情報科
（岡山理科大学 工学部より）
- ・進学医療コース
（岡山理科大学 医療系学科より）

■校外学習の推進

- ・岡山理科大学での情報系科目の受講
- ・岡山大学による高校生向け科目の受講
- ・科学の祭典等への参加
- ・倉敷芸術科学大学での実習（ア・ム・デザインコース）
- ・池田動物園・岡山理科大学専門学校での実習
- ・山田養蜂場・山田みつばち農園での実習
（生命動物コース）
- ・玉野総合医療専門学校での見学実習
（進学医療コース）

生徒指導への取組

- ・朝のあいさつ運動を実施しました。
- ・服装指導の強化に取り組みました。
- ・休み明けの遅刻防止強化週間を実施しました。
- ・PTAと協力しての保導活動（街頭保導・列車保導・バス乗車指導）を実施しました。
- ・教育相談室・保健室と担任・生徒部・管理職との連携を強化しました。
- ・岡北セーフティネットを通じて地域との協力・連携を強化しました。

教職員への資質向上への取組

- ・教職員・保護者対象の各種研修会を実施しました。
- ・教職員・保護者対象の関連大学見学ツアーを実施しました。
- ・予備校主催の受験指導講座へ参加しました。
- ・新学習指導要領へ取り組みました。
- ・道徳教育を実施しました。
- ・インターシップ実施計画を策定し実施しました。
- ・人事考課導入へ向けての準備を行いました。

その他の個別取組

■特別進学コース

1日7コマの授業と、土曜日4コマの授業で、弱点を克服しバランスのとれた学力アップを目指し、進学実績を向上させました。

■進学理大コース

関連大学への進学を大目標に、部活動、生徒会活動など高校生活が充実したものになるよう支援しました。今年度採択されたSSHに取り組み、理科・数学に重点を置いたカリキュラムや大学や研究機関等との連携した教育を見据えながら、将来国際的に活躍する有意な科学技術系人材の育成に努めました。

■中高一貫コース

SSHに取り組みました。理科・数学に重点を置いたカリキュラムや大学や研究機関等との連携した教育を見据えながら、将来国際的に活躍する有意な科学技術系人材の育成に努めました。

■進学総合コース

関連校との連携も強化し、関連校を中心に進学実績の向上に努めました。

■進学医療コース

岡山理科大学や、玉野総合医療専門学校での体験などを行い、関連校やその他の医療系大学・専門学校への進学を実現しました。

■生命動物コース

岡山理科大学専門学校での愛玩動物のトレーニングや健康管理の補助、本格的な動物医療機器・実習施設を有する倉敷芸術科学大学との交流をはかりました。また、長期休業期間に教育協定を結んでいる池田動物園で飼育実習を行い、通常ふれあえない大小様々な動物達の管理・観察や蜜蜂の

飼養研究を行い、動物に関わる者として、生命の尊さを学びました。

■アニメ・デザインコース

倉敷美観地区の中にある加計美術館で卒業作品展を実施しました。生徒たちの個性あふれる作品が展示できました。

■健康・スポーツコース

トップアスリートを目指すため、体育の実技と理論それらをサポートするため倉敷芸術科学大学生命科学部健康科学科との高大連携を取り、大学での実習などを充実させました。

■機械科

資格取得にも積極的に挑戦し、企業にとって即戦力となる生徒の育成を目指しました。

■電気情報科

在校中に資格の取得を目指し、関連校への進学も目指しました。

通信制課程の教育

■平日コースの充実

小学校、中学校就学時において、何らかの要因で十分な教育の機会と成果を得ることが出来ない生徒に対して、平日、週2日の通学を施しH・R、所定の授業、学校行事、各種研修を計画性をもって実施し、自律・協調・継続という社会性と教養を高める指導を単位制・学年制で充実・完成を推進させました。

■進路先の開拓と充実

通信制課程高等学校卒業後の進路確定率をさらに向上させることに努めました。

進学指導と就職活動支援

早い時期からの進路目標確立のため、学年別・進路先別にガイダンス、講演会を計画、また各科・コースにおいても生徒、保護者対象に進路説明会を実施して、生徒の進路意識を高めると同時に生徒一人ひとりに適した進学・就職先を指導していきました。

また、昨年同様に有名難関大学の指定校獲得のため、可能な限り大学訪問を行い、就職先ではより有名、優良企業の求人確保のため、企業訪問を実施しました。

生徒募集

入試広報部教員と中高入試広報室職員とが共同できめ細かい広報活動を行いました。

主な行事

4月 7日	始業式
4月 9日	入学式
4月13日	交通安全講習会
4月15日	入学式（通信）
4月30日	創立者の日
5月12日	PTA総会
6月17日	後援会総会（通信）
6月20日 ～21日	球技大会
7月14日	第1回オープンスクール
7月29日	卒業式（通信）
8月27日	始業式（通信）
8月31日	全校集会
9月 1日	入学式（通信）
9月21日	体育祭
9月29日	第2回オープンスクール
10月 5日	文化祭
10月 6日	文化祭（通信）
11月17日	第3回オープンスクール
12月 2日	卒業式（通信）
12月23日	入学式（通信）
1月12日	県外生入試
1月29日 ～30日	選抜Ⅰ期入試
2月18日	選抜Ⅱ期入試
3月 1日	卒業式
3月24日	卒業式（通信）

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成24年5月1日現在)

課程・学科・コース名			入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
全 日 制 課 程	普 通 科	進学総合コース	380	61	1,140	189
		進学医療コース		8		29
		特別進学コース		40		116
		中高一貫コース		28		89
		進学理大コース		58		162
		健康・スポーツコース		61		187
		アニメ・デザインコース		40		107
		生命動物コース		38		91
		普通科 計		334		970
	機械科	80	85	240	211	
電気科	(募集停止)	—	—	—		
情報科	(募集停止)	—	—	—		
電気情報科	40	37	120	86		
全日制課程 計			500	456	1,500	1,267
通信制課程 (広域) 普通科					600	264
総合計			500	456	2,100	1,531

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成24年度)

区分	卒業者	就職希望者		就職率	進学希望者		進学率	退学者・除籍者	休学者	留年者 ※
		A	B		C	D				
全日制課程	392	72	69	96%	315	307	97%	19	0	2
通信制課程	100	14	14	100%	45	45	100%			

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成25年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	JFEスチール(株)西日本製鉄所、JFE鋼板総合サービス(株)、(株)IHI相生事業所、三菱造船(株)玉野営業所、(株)豊田自動織機、西日本旅客鉄道(株)、(株)きんでん 他
主な進学先	大阪大学、九州大学、神戸大学、岡山大学、岡山県立大学、立命館大学、関西大学、同志社大学、関西学院大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、吉備国際大学 他

■教職員数

(平成24年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
(1)※	3	72	75	17

※校長は大学教員と兼務

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	24年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	755,664	738,390
補助金収入	380,924	380,887
その他収入	73,399	71,225
帰属収入合計	1,209,987	1,190,502
基本金組入額合計	△ 467,342	△ 387,958
消費収入の部合計	742,645	802,544
人件費	1,022,611	1,070,782
教育研究経費	279,462	275,677
管理経費	137,250	144,077
その他支出	38,616	46,116
消費支出の部合計	1,477,939	1,536,652

■施設設備整備（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
女子トイレの改修	4,150
中型バス（29人乗り）の購入	6,008
省エネ対策（ガラスのコーティング）	710
加計第2体育館卓球台	483
8校舎3階物理教室 電子黒板他	1,102
家庭科ミシン他	1,668
1校舎5階理科室 生物顕微鏡他	514

平成24年度 事業報告

岡山理科大学附属中学校

中高六年一貫教育により勉強と課外活動を両立させながら、卒業後は全国のトップ大学および医歯薬獣系大学、関連大学へ進学させることを通じて、日本社会各分野のトップリーダーとなる人材を育成する。



中高六年一貫制による思い切った先取り教育に加え、少人数教育や習熟度別教育の充実により、生徒一人ひとりに対するキメ細かいフォローを行い、超難関大学・医歯薬獣系大学への進学実績を目指しました。また、教員養成に実績のある岡山理科大学からの派遣チューターにより、自習教室を週3回開催し自学指導を強化しました。課外活動（部活動・生徒会）を活発化させ、健全な体力と充実した気力を兼ね備えた、バランスの取れた人間形成をはかる人づくり教育Human Educationを充実させていきました。また、岡山理科大学の支援により、理科実験を大幅に充実させることにより、理科教育に力を入れ、小学生向けの理科実験教室を定期的に開催し、「理科教育の理中」の特長を伸ばしていきました。

岡山理科大学附属中学校 校長 位田 隆久

教育の充実

■選抜クラス、スーパー選抜クラスの新設

今年度から入学段階で、選抜クラスとスーパー選抜クラスのクラス分けを行い、学力上位層の強化および下位層の底上げをはかりました。生徒一人ひとりに対するキメ細かいフォローを行い、超難関大学・医歯薬獣系大学への進学実績の向上を目指した教育に取り組みました。

■「理科教育の理中」の特長の強化

岡山理科大学基礎理学科理数系教員コースの教育・活動の一環として、院生・学生を定期的に派遣してもらい、理科授業の中における実験の回数を大幅に増加させ、理解度向上をはかりました。

また、課外活動において、科学研究部やロボット研究部では、学会やロボコンへの参加・受賞を目指しました。

■人づくり教育 Human Education

知力を重んじる傾向が強い現代世相の中で、知・徳・体の調和の取れた優秀な人材を育成することが重要であり、Human Educationの強化を再認識すべき時と考えます。Human Educationの試みとして校長による論語教育を実施しました。

■チューターによる自習教室

今年度で4年目となる本校の自習教室は、岡山理科大学の学生をチューターとし、生徒の質問に答えるなど、自学能力向上を図ります。今年度も引き続き継続したことにより、確実に自学自習能力が向上しました。

■イメージ教育（英会話、芸術科目）

専任ネイティブ教員によるイメージ教育（英会話、芸術科目）を継続・強化し、生活感覚の中から英語力を強化するとともに、グローバル・スタンダードを持ち、国際社会で活躍できる人材の育成をはかりました。

■二宮尊徳像設置

本校は、学園の建学の理念を教育の基本としております。この度の二宮尊徳像の設置は、古来より日本人が斯くある理想の人物像として捉えてきたことから、具体的な人物像を本校生徒に明示する事で、更なる教育効果の高揚をはかりました。

新規事業報告

■SSH事業

岡山理科大学附属高等学校で採択されたSSH事業を推進するにあたり、中高一貫コースの中学3年生からの取組が不可欠であり、そのために、「自然体験」や「イメージ理科実験」を組み入れました。中学校から高校へ円滑に教育連携が行われるよう、4年生から6年生に至るまでの理科・数学に重点を置いたカリキュラムや、大学や研究機関等との連携した教育を見据えながら、将来国際的に活躍する有意な科学技術系人材の育成に努めました。

■教育交流協定の締結

南オーストラリアのバンクシャー・インターナショナルハイスクールとの教育交流により相互の

交流を深めるとともに、同校への海外研修の範囲を拡大する可能性を追求しました。

■校外研修、インターアクト活動の推進

これまで関連大学や関連専門学校への医療分野や芸術分野の研修を実施してきましたが、それに加えて人間力・自発力の向上を目的とした研修を実施しました。

生徒募集報告

■広報活動

生徒募集活動においては、塾及び小学校との連携をより一層深めるために、実施日を決めて教員が塾及び小学校への一斉訪問を実施しました。

また、8月下旬に開催したオープンスクールでは実験教室、バレーボール教室、ソフトテニス教室、イメージ教育の授業、講演会を組み込むなど魅力ある内容にするなど広報活動の強化に努めました。

■入試説明会

6月19日（火） 塾対象

9月22日（土）

9月 5日（月） 中高一貫を考える会総会にて学校説明

10月20日（土）

10月13日（土） 能開センター（姫路）

11月 9日（金） トワイライト

11月24日（土） 兵庫県にて（神戸・姫路）

12月 1日（土）

■オープンスクール

7月28日（土） 9：30～12：00

8月24日（金） 9：30～12：00

8月25日（土） 9：30～12：00

9月 1日（土） 9：30～12：00

■理科実験教室

7月28日（土） 9：30～12：00

8月24日（金） 9：30～12：00

8月25日(土) 9:30~12:00

主な行事

4月9日	入学式
5月26日	P T A総会、授業参観
7月27日	休み前集会
9月3日	休み明け集会
9月8日	体育祭(岡山ドーム)
9月26日	前期終業集会
10月1日	後期始業集会
10月27日	学習発表会
12月21日	休み前集会
12月22日	自己推薦入試

12月23日	一次入試(A日程)
1月5日	一次入試(B日程)
1月8日	休み明け集会
1月25日	百人一首大会
1月26日	二次入試
3月16日	義務教育修了式
3月17日	海外研修 3/25まで
3月19日	修了式

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成24年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	49	240	156

(単位:人)

■教職員数

(平成24年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員計	事務職員
1	1	14	16	2

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	24年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	84,394	88,988
補助金収入	61,165	56,635
その他収入	32,019	4,987
帰属収入合計	177,578	150,610
基本金組入額合計	△ 812	△ 682
消費収入の部合計	176,766	149,928
人件費	206,906	161,606
教育研究経費	37,148	37,384
管理経費	14,262	18,796
その他支出	0	64
消費支出の部合計	258,315	217,850

平成24年度 事業報告

岡山理科大学専門学校

建築と動物そして魚のスペシャリストを養成。学生、保護者、高等学校、地域、関連業界の皆様へ支持される学校を目指します。



「使命」

専門学校の使命は言うまでもなく、有為で即戦力となる卒業生を輩出することにあります。専門的な技術や知識の習得、検定や資格の取得をさせることと、

人としてバランスの取れた人材の育成に力を注ぐことを本校の「使命」とします。

「方針」

1) 「教職員の意識の確立」

全教職員が、教員としての自覚の高揚、資質の向上を図り、学生に対し専門知識や技術の教授はもとより、一般常識やコミュニケーション能力の教育ができるよう努めます。学生に満足いく教育を提供し、卒業後は社会で即戦力として活躍できる人材の育成を目指します。

2) 「進路開拓」

校長を中心に、学生の専門性が生かせる事業所にできるだけ多く足を運び、学生の希望に沿った就職先を開拓していきます。

3) 「安全・安心の学校づくり」

地域社会との交流の機会を増やし、地域の意見に耳を傾け、地域で育てて頂く学校づくりを目指します。また、学生のマナーやモラルの向上を図り、安全で安心な通学・学校環境を構築していきます。

岡山理科大学専門学校 校長 村岡 正

教育並びに施設の充実

■きめ細かい教育

チューター並びにサブチューターを中心とした教職員が学生個々を把握し、専門技術の習得はもとより、学生とのコミュニケーションを密にとり学習意欲の維持、メンタル面のサポート、就職活動の啓発等から満足度の高い学生生活送れるようサポートをしてきました。学生、保護者に対して専門教育の重要性、青年期の精神面や思考等について講演会も開催しました。

■産官学連携の教育

平成21年度に、真庭市と包括教育協定を締結しました。平成22年度には「温泉」をキーワードに動物看護の分野により、「温泉入浴の動物に対する効果」の研究や、建築学科においては「温泉街の活性化プラン（例）」の提案など自治体と専門学校の連携による教育を開始しました。温泉実験については、初年度は異常気象および研究の初歩段階であったため、特に夏場はデータにばらつきなどもありましたが、平成23年度における実験では、犬にもたらず温泉効果は入浴後に現れていることが確認でき、平成23年12月5日に研究の中間発表を行いました。今年度はさらに計測方法などを検討し、精度の高い実験を健康機器系企業と共同で行ないました。平成25年度も継続して展開する予定です。

岡山県および岡山市が開催するそれぞれの動物愛護フェスティバルに積極的に関与・参加し、動物愛護啓発運動に参画しました。

また、アクアリウム学科においては、企業との受託研究を積極的に展開し、各種の実験データから実用的な水生生物の飼育・繁殖を行いました。次年度も継続して行く予定です。

■カウンセラーの配属

従来、精神的な悩みを抱えた学生は岡山理科大学等が招聘したカウンセラーに相談をしていましたが、潜在的に悩みを抱えた学生も多く、本校に専門のカウンセラーを定期的に招聘し、学生並びに教職員の心の問題解決などのケアを行っています。今年度は、より一層利用し易くなるようカウンセリングが出来る日を増やしたことにより、35件のカウンセリングが行われ、有効に活用されました。

教職員の意識改革

■自己点検、自己評価 FD・SD

専任教員並びに非常勤講師対象に実施している授業アンケート結果を踏まえ、より良い授業が展開できるよう改善指導を行いました。

専任教員の授業担当時間を精査し、職位、校務分掌を考慮し均等化を目指し、また自己研鑽できる時間を創出するよう配慮しました。

事務職員の対応及び施設設備等についてアンケートを実施し、学生の満足度アップに繋げる改善を教育的考慮を加味し実践しました。

また、昨年度より教員・職員評価を実施し、業務および学校運営に生かしています。

■コスト意識

人件費、光熱水費、教育・研究用消耗品について有効活用、合理化、節約について事ある毎に啓発し、エコ教育に結びました。LED電球の使用や省

エネエアコンへの取り替えなどを計画しており、予算上の問題も考慮した上、平成25年度には実施する方向で進めています。

学科・コースの充実

■動物看護学科 3年制

高度医療に対応する動物看護師養成と動物看護師の国家資格化に対応するため、従来の2年制コースに加えて、3年制のコースを平成22年度から開始しました。

少子高齢化が進む昨今、家庭内でペットはコンパニオンアニマルとして家族の一員、時にはそれ以上の存在です。そのコンパニオンアニマルの健康、長寿を手助けする獣医師をサポートする幅広い専門技術と知識を備えた動物看護師を養成します。

また、この3年制コースの目的は、動物看護師の制度化に伴う看護師の公的資格化とともに、現在の動物医療界における高度医療への要望、食品メーカーや大動物分野等の小動物病院以外への職域の拡大、人と動物の関係を担う福祉分野のニーズにも対応します。職域の拡大を図り、ヘルパー2級を取得する実習を開始し、ダブルでの資格取得が可能となり卒業後、各分野で生かされます。

平成25年度に向けて

■新分野の学科創設準備

動物系の学科を立ち上げて10年を迎える節目の年でもありました。卒業生の各現場での活躍や新しい分野での今後の発展が期待されるペット業界ではありますが、景気低迷等の影響から苦戦を強いられました。

今後の岡山理科大学専門学校の繁栄を期して既存の分野、建築系、アクア系、動物系の連携を図り、これから更に充実した教育内容や資格取得に努めます。職域の拡大を図り、動物看護学科だけ

でなく、動物系全般に、ヘルパー2級を取得出来るように広げていきたいと考えています。

■学校周辺の地元を対象とした学校見学会

本校の教育内容を知って頂き、更なる理解・協力を得るため地元の方々を対象とした学校見学会等を実施しました。

近隣地区の中学生や小学生の授業研究も行っています。今年度も引き続き学校見学会を開催したことで、教育内容や施設などを多くの方々に伝え、教育の場を広げることができました。今年度は、2校の中学生が来校し、体験・見学をしました。

1年次12月の段階での進路希望調査書を基に1月より第一希望の分野を決定していきます。動物系においても一般企業を希望する学生は2月より直ちに就職活動を開始させ、満足度の高い企業への就職を目指すよう指導します。動物系専門職への就職は3月以降のインターンシップ実習により第一志望企業への内定獲得を目指しました。

また、学生の就職意識啓発と就職相談の充実を図るため、就職課とチューターが連携をとって就職活動支援を実施しました。就職状況は昨年よりアップし、97.6%でした。

学生募集

- (1)資料請求者への積極的なアプローチ
- (2)社会人の受験生増加を図る
- (3)広報強化地域

就職活動支援

■就職活動ガイダンス

- 1年生：7月 インターンシップの注意事項
- 10月 インターンシップの注意事項
- 11月 進路選択について
- 12月 情報収集と企業へのエントリー
- 3月 履歴書、面接について
- 2年生：6月 内定お礼状の書き方

これまでの課外時間（5時限）を利用した就職ガイダンスに加えて、ホームルームの時間を利用したクラス単位での就職ミニガイダンスを随時実施し、きめ細かい就職活動支援を行う機会を設けました。特に、これまでは2年生を対象に行っていましたが、今年度は、1年生においても事前指導やキャリア教育を展開しました。

■就職活動支援

主な行事

4月 8日	入学式
4月11日	授業開始
7月18日 ～8月25日	夏季休暇
9月10日 ～14日	前期末試験
10月 1日	後期授業開始
12月22日 ～1月9日	冬期休暇
3月20日	卒業式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成24年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
工業 専門課程	建築学科(昼間部)	40	41	80	74
	建築学科(夜間部)	20	10	40	22
	福祉住環境デザイン学科	(募集停止)	—	—	—
	計	60	51	120	96
商業実務 専門課程	映像情報学科	(募集停止)	—	—	—
	計	(募集停止)	0	0	0
文化・教 養専門課 程	動物看護学科 3年制	30	20	90	47
	〃 2年制	20	22	40	50
	トリミング学科	40	46	80	88
	ドッグトレーニング学科	40	55	80	98
	アクアリウム学科	40	34	80	70
	計	170	177	370	353
文化・教 養 一般課程	トリミング学科	(募集停止)	—	—	—
	ドッグトレーニング学科	(募集停止)	—	—	—
	アクアリウム学科	(募集停止)	—	—	—
	計	(募集停止)	—	—	—
合計		230	228	490	449
専攻科 研究科	建築学科専攻科	10	7	10	7
	動物系総合学科研究科	10	4	10	4

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成24年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
岡山理科大学専門学校	212	163	159	98%	30	29	1	2

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成24年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	岡山市役所、(株)大本組、蜂谷工業(株)、エス・バイ・エル・カバヤ(株) 京都中央動物病院、井笠動物医療センター、ペットショップアミーゴ妹尾店(他6店舗) アダチペットショップ、島根県立しまね海洋館アクアス、のとじま水族園、その他129社
-------	---

■教職員数

(平成24年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	0	12	13	12

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	24年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	382,492	348,573
補助金収入	318	342
その他収入	4,829	26,810
帰属収入合計	387,640	375,725
基本金組入額合計	△ 16,729	△ 14,813
消費収入の部合計	370,911	360,912
人件費	221,914	295,243
教育研究経費	79,736	87,364
管理経費	29,818	35,193
その他支出	1,607	3,193
消費支出の部合計	333,076	420,993

■施設設備整備（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
1校舎2階講義室エアコン設備一式	1,500
小動物用マットヒーター1台	100
生物実習顕微鏡5台	700
グラウンド内のプレハブ建替工事一式	1,500
ウミガメの池ろ過器他（リースアップ）	140
大型クーラーKDA-1000 1台（交換用）	240
大型クーラーKDA-2000 1台（交換用）	520

平成24年度 事業報告



玉野総合医療専門学校

21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



「学・術・道」の校是のもと
21世紀社会の医療・保健・福祉・介護のニーズに応えられる
専門職者育成を目指して、国家試験の全員合格を目標に全学を
挙げて取り組みました。

また、教育支援の一環として基礎学力の向上、
動機付けのためのリメディアル教育を取り入れ
一定の成果が見受けられました。

玉野市と(学)加計学園の包括協定をもとに地
元に根付いた学校を目指す共に地域との連携を
深める活動を展開しました。

入学定員確保のため教職員一丸となって広報
活動に取り組みました。

玉野総合医療専門学校 校長 高井 研一

教学環境の整備

■教育支援の実施

新入生の学力を把握するために4月に基礎学力試験を実施し、各学科で必要となる基礎学力の向上を図るために副校長および教務主任を中心として、リメディアル教育を実施しました。1年前期に学科の特色に合わせた特別授業を行い、一定の成果が見受けられました。

■新入生宿泊研修の実施

昨年に引き続き、玉野スポーツセンターで新入生合同宿泊研修を行いました。

今年度は、卒業後も役に立つものとして、マナー研修を取り入れました。また、学科の枠を超えたグループによるレクリエーションを行うことで、共に本校の学生であることの連帯感を養いました。

■国際交流・海外研修の実施

海外の教育交流提携校からの研修生を受入れ、学生主体による交流を図り、国際理解・協力の一端を経験させました。

また、9月には海外研修を実施し、アメリカ合衆国における医療・福祉の考え方や実践および文化に触れることで、より国際感覚をもった医療・福祉の人材の育成を行いました。

■教育・進路懇談会の実施

学校と家庭を結ぶ架け橋として「教育・進路懇

談会」を実施しました。学校と保護者がそれぞれの環境下での学生の現状について連絡を取り合うことで、学生の変化を早期に感じ取り、学校、保護者と連携した適切な指導に役立てることができました。

学内環境整備

■外壁の大規模補修の実施

平成10年に開校して以来、14年が経過し、外壁の傷みが増してきました。そこで、壁全体の補修を行い、医療・福祉系の専門学校に相応しい清潔感のある白壁とオレンジの屋根の校舎が復活しました。

■健康管理室の充実

学生は、様々な悩みを抱えています。学生が自らの悩みや相談を受けやすくするため、カウンセリングの充実や相談窓口の多様化など、学生の福利厚生に努めました。

■スクールバスの運行維持

岡山県内各所から通学する学生の便宜を図るため、岡山駅並びに倉敷駅、茶屋町駅間のスクールバスの運行を継続し、通学し易い環境の維持に努めました。

■教室等の環境整備

すべての教室にプロジェクタ、DVD、TV等を整備し、さまざまなメディアを活用した、より分かりやすい教材による授業が行える環境の整備が完了しました。また、学生が憩う学生ホールでは、空間環境の整備を行いました。

■災害時の避難および連絡体制の整備

玉野市と連携し、津波などの大規模災害を想定した避難誘導および緊急連絡体制の整備を行いました。更に、学生の安全確保に努めます。

平成25年度以降に向けて

■関連高等学校との連携

岡山理科大学附属中・高等学校および英数学館高等学校からの実習生の受け入れや本校教員を講師として派遣しました。

■保健看護学科のカリキュラム変更

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い保健師の教育内容が変更されました。保健看護学科のカリキュラムがより充実した授業となるよう継続した授業改善を行います。

■介護福祉学科の改編

平成19年度の法改正により「介護福祉士」の国家資格の要件が変更され、平成23年度入学生より国家試験受験資格となりました。また、平成24年度以降、実務経験者が国家試験を受験する際、受験資格として3年以上介護等の業務に従事した者であって厚生労働大臣の指定した養成施設等において6カ月（600時間）以上介護福祉士として必要な知識及び技能の修得が課せられることとなりましたが、厚生労働省の検討会で、内容等の変更及び実施時期の延期が盛り込まれ、法改正により、実施時期が平成27年度に延期されました。

本校では、実務者が国家試験を受けるための養成施設等の認可が受けられるよう、専攻科等の設置を継続して検討します。

地域との連携等

■地元教育機関との連携

玉野市内等の高等学校との積極的な交流、連携を目指し、今年度も昨年に引き続き、市内中学校2校と市内の高等学校1校で福祉の授業を実施しました。

■公開講座等の充実

本校では、毎年3回の公開講座を実施しています。玉野市民等の熱意に対して保健・医療・福祉分野の情報を幅広く積極的に提供しました。

また、玉野市生涯学習センターおよび公民館での出張講座等も積極的に行いました。

■玉野市内の行事への参加

玉野市で開催される「たまの・港フェスティバル(5月)」「かつからか祭り(8月)」等の行事に学生および教職員が積極的に参加しました。

また、10月に開催する学校祭「優勇祭」に市民団体等の参加を呼びかけ、多くの市民の方に参加して頂きました。

学生募集

- (1)入試制度の見直し
- (2)職業訓練生委託事業の実施(介護福祉学科)
- (3)地元の高等学校との連携強化
- (4)入学金減免制度実施(専願学生確保のため)
- (5)スクールバス運行の継続



- (6)JR宇野駅、茶屋町駅への看板設置
- (7)オープンキャンパスの充実
- (8)テレビCMの実施

就職活動支援

■保健看護学科

就職担当教員による県内全域の主たる病院施設等への訪問および既卒者による各自の就職先の紹介、卒業前と就職後の各自の意識の違いなどに関する意見交換会を開催しました。

■介護福祉学科

就職担当教員による県内施設への求人状況の問い合わせを行いました。

■理学療法学科・作業療法学科

就職担当教員による県内外の本校実習施設および病院施設等への問い合わせを行いました。

主な行事

4月 4日	入学式
4月 5日	前期講義開始
7月27日～ 8月 6日	前期試験期間
8月 7日～ 9月 2日	夏期休業
9月21日	後期講義開始
10月20日～10月21日	学校祭
12月25日～ 1月 4日	冬季休業
1月22日～ 2月 4日	後期試験期間
3月10日	卒業式
3月21日～ 3月31日	学年末休業

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成24年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
医療専門課程	保健看護学科	40	43	160	159
	理学療法学科	40	40	160	148
	作業療法学科	40	30	160	104
	計	120	113	480	411
教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	40	17	80	41
	計	40	17	80	41
合 計		160	130	560	452

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成24年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
玉野総合医療専門学校	82	82	72	88%	0	32	9	36

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成25年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	倉敷中央病院、心臓病センター榊原病院、岡山大学病院、岡山旭東病院、慈圭病院 鳥取大学医学部附属病院、岡山リハビリテーション病院、吉備高原リハビリテーション病院 他
-------	--

■教職員数

(平成24年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計
1	2	30	33

事務職員
8

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	24年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	472,895	480,638
補助金収入	25,906	26,084
その他収入	21,855	17,506
帰属収入合計	520,657	524,228
基本金組入額合計	△ 3,872	△ 1,272
消費収入の部合計	516,785	522,956
人件費	372,374	440,377
教育研究経費	177,835	149,224
管理経費	44,215	46,180
その他支出	0	23
消費支出の部合計	594,423	635,804

平成24年度 事業報告



倉敷 食と器 専門学校

本校は、様々な季節の食材の特徴を生かすことのできる「シェフ」と「パティシエ」の養成を目的とし、同時に食べることと作ることの楽しさや喜び、食彩感覚を伝えることのできる職業人の養成を行いました。



本校は、専門的な技術と知識を備えた職業人の養成を目指した専門学校です。さらに

隣接する「倉敷芸術科学大学」とコラボレートを含めた独自の教育を推進しました。

また食べること、作ることの幸せを伝えることができる人材の育成を目指しました。

さらにインターンシップにより、就職に対する意識の向上と就職活動への早期取り組みを指導しました。

なお、平成24年4月より、倉敷芸術科学大学調理師別科並びに製菓衛生師別科として再編し、本校は本年度より募集停止し、現在の2年生が卒業した平成25年3月を持って廃止となりました。

倉敷 食と器 専門学校 校長 亀井 秀人

特徴のある教育内容

■高度調理フードコーディネーター学科

料理の基本や調理器具の扱い方を反復し、食材の特徴や調理の基礎など調理師免許取得に必要な理論の修得をしました。

また和食、洋食をはじめ中華、寿司、麺、パスタ等の実習を通して、数百種に及ぶメニューを作ること、実社会に即した調理師の育成に努めました。

また料理に欠かすことのできない皿や碗の制作実習を取り入れており、料理を生かすための知識の修得を目指しました。

■高度製菓製パン学科

既に1年次で製菓衛生師受験資格が取得できているため、2年次で国家試験を受験し、在学中に資格取得を目指し、全員国家試験に合格しました。

1年次に学んだ製菓及び製パンの製作技術の基本を生かし、2年次においては洋菓子や和菓子、パンの製作技術だけでなく、見た目も華やかなスイーツが作れるように業界の第一線で活躍するプロの講師の技術指導を受け、さらにアメ細工など彩りの鮮やかさの表現力の習得も視野に入れた教育をしました。

またパンやスイーツとの調和のとれる器のデザ

インや制作実習も行い、コーディネート感覚も学びました。

■器デザイン学科

将来、陶芸家やガラス工芸家等の、ものづくりの職人になるための基礎技術や製作技術を習得しました。

器のデザインから制作までの知識や技術だけでなく、食に関する講義やフードコーディネートの講義を受けることで、食の視点から器について幅広く学習し、器とのコラボレートを提案できるデザイン力を養いました。

学生募集

■高校訪問

平成24年4月より募集停止しているため、専門学校としての募集は行いませんでした。

就職活動支援

■就職活動の意識向上

インターンシップにより、就職に対する意識向上を図り、就職指導に生かしました。学生に対して、就職説明会を開催することで就職活動の早期取り組みに結びつけ、就職率向上に努力しました。

■就職ガイダンスの開催

学内のガイダンスの回数を増やし、心構え・言葉遣い・社会生活の基本等、また就職試験指導・模擬面接等きめ細かく指導しました。

また外部のガイダンスに積極的に参加するよう推進しました。

主な行事

4月 9日	講義開始
7月 31日	前期試験（～8月7日）
8月 8日	夏季休業
9月 20日	後期開始
10月 27日	文化祭（～10月28日）
12月 22日	冬季休業（～1月 6日）
1月 30日	後期試験（～2月 7日）
2月 16日	学年末休業（～3月31日）
3月 23日	卒業式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成24年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
衛生 専門課程	高度調理フードコーディネート学科	-	-	40	11
	高度製菓製パン学科	-	-	40	20
	計	-	-	80	31
文化・教 養専門課 程	器デザイン学科	-	-	20	3
	計	-	-	20	3
合 計		-	-	100	34
高度陶芸ガラス創作研究科		-	-	10	0

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成24年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
倉敷 食と器 専門学校	30	28	27	96.4%	0	4	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成25年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	全日空ホテル、日航ホテル倉敷、済生会病院、中州保育園、アイビースクエア、ル・フォワイエパティスリー・ピアジェ、コロンバージュ、シャロン、華宵庵、マサベーカーリー 他
-------	--

■教職員数

(平成24年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
(1)※	1	4	5	4

※校長は倉敷芸術科学大学事務局長と兼務

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	24年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	35,215	103,998
補助金収入	157	186
その他収入	3,620	798
帰属収入合計	38,992	104,982
基本金組入額合計	△ 243	△ 380
消費収入の部合計	38,749	104,602
人件費	97,857	134,459
教育研究経費	43,922	56,127
管理経費	7,980	10,859
その他支出	0	2
消費支出の部合計	149,759	201,447